

学校法人

# 芝浦工業大学 概要

INCORPORATED EDUCATIONAL INSTITUTION GUIDE 2017

事業報告書 2016





## SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY





理事長あいさつ

# 理工系私学のトップを目指して

学校法人 芝浦工業大学 理事長 五十嵐 久也

芝浦工業大学の源流は、創立者有元史郎が1927(昭和2)年に開設した東京高等工商学校です。1949(昭和24)年に学制改革により芝浦工業大学を設置しました。本学校法人の設置校には幾多の変遷があり歴史を刻んで参りましたが、現在は大学(4学部16学科)、大学院理工学研究科(修士課程、博士(後期)課程)、専門職大学院工学マネジメント研究科に加え、東京都と千葉県に中等高等学校を擁して1万人を超える学生・生徒諸君が学んでいます。有元史郎が建学の理念として掲げたものは、「実用的な技術と知識を併せ持って工学一途、工業立国技術立国を担う技術者の育成」と「自立自学、質実勤勉しかも高い倫理観と豊かな見識を備えた優れた人間形成」を目指したものでした。

その実現の支えとなってきたのが「現代社会の諸相に学び、人類の福祉、社会に貢献する技術者の育成」を旨とする本学の実学教育であり、教職員一丸となり一貫して有為な人材の育成に邁進してきました。

その結果、本学の卒業生は堅実に仕事ができる、仕事に強い技術者として高い評価を受け、我が国の技術・工業の発展に大きく貢献

して参りました。本学は、創立後90年の歴史を歩んできましたが、今後は今まで以上に社会から求められる大学として存在し、真価を發揮することが必要です。

創立90周年となる本年は、新設建築学部が豊洲キャンパスに第1期生を迎え、附属中学高等学校が期待を背負って新豊洲でスタートを切るなど大きな節目の年となりました。

また、本学は創立100周年となる2027年に名実ともに「日本の理工系私学のトップ」、また「アジア工科系大学トップ10」となる目標を掲げております。様々な分野でグローバル化や技術の高度化が進む現代社会において、社会は本学をどのような理由で求め評価しているのか、建学の原点に立ち返り、さらなる教育の質向上を目指し教職学協働で新たな挑戦に取り組んで参ります。

「理工系を目指すなら芝浦工大」「学生採用なら芝浦工大」と皆様からご評価いただき、自信を持ってお薦めいただける理工系私学のトップランナーを目指し努力して参ります。


今後の芝浦工業大学にご注目いただき、ますますのご支援ご鞭撻の程よろしく願い申し上げます。

## 学校法人 芝浦工業大学 沿革


1910 1920 1930 1940 1950 1960

**1927** ▶ 昭和2年

東京府荏原郡大森町に東京高等工商学校設立(創立者 有元史郎)。その後、芝区(現港区)芝浦町に移転



東京高等工商学校 建築工学科 1期生授業風景(1929年)



1931年頃 電気工学科 電気実験

**1950** ▶ 昭和25年

芝浦工業短期大学を設置(その後、1983(昭和58)年に廃止)

**1951** ▶ 昭和26年


学校法人芝浦学園に組織変更

**1953** ▶ 昭和28年

学校法人鉄道育英会を吸収合併。東京育英高等学校(現芝浦工業大学附属高等学校)の経営を継承

**1966** ▶ 昭和41年

埼玉県大宮市(現さいたま市)に大宮キャンパス竣工



1970年代後半 芝浦校舎正面

**1943** ▶ 昭和18年

財団法人東京高等工学校を設立(3月)  
財団法人芝浦学園と名称変更(10月)

**1962** ▶ 昭和37年

学校法人芝浦工業大学と名称変更

**1963** ▶ 昭和38年

大学院工学研究科修士課程を開設、電気工学専攻(現電気電子情報工学専攻)、金属工学専攻(現材料工学専攻)、工業化学専攻(現応用化学専攻)を開設

**1980** ▶ 昭和55年

芝浦工業大学柏高等学校設置

**1949** ▶ 昭和24年

芝浦工業大学を設置、工学部機械工学科、土木工学科を開設

**1982** ▶ 昭和57年

芝浦工業大学高等学校を東京都板橋区に移転し、同時に中学校を設置

## 建学の精神

# 社会に学び、 社会に貢献する技術者の育成

創立者 有元 史郎 (1896—1938)



芝浦工業大学の源は、1927(昭和2)年、創立者有元史郎が創設した東京高等工商学校です。有元史郎が唱えたのは「現代文化の諸相を教材とし、社会的活動の意義を体得する教育」でした。この実学主義の教育により、実用的な知識と技術を併せ持ち技術立国を担う技術者、さらに高い倫理観と豊かな見識を備えた優れた技術者の育成に取り組み、社会の進歩発展に貢献してきました。これからも芝浦工業大学は、日本だけでなく海外との交流を通じて広く世界に学び、国際社会に貢献する大学としてグローバルな教育・研究力を発揮し、社会の期待に応えていきます。

有元史郎は、1923(大正12)年、苦学の末に東京帝国大学(現東京大学)工学部機械工学科を卒業。引き続き同大学経済学部に入學して経済学を学びました。向学心が強く、工学、経済学のほかにも、法学、文学、商学を修め、合わせて5つの学士号を取得しました。弱冠30歳、東京帝国大学の大学院生のときに東京高等工商学校を創立し、芝浦工業大学の礎を築きました。

## INDEX

学校法人 芝浦工業大学	理事長あいさつ、沿革 ..... 3
	建学の精神 ..... 4
	法人概要 ..... 5
	組織図 ..... 6
	TOPICS ..... 7
	建築学部開設 国際理工学専攻、国際コース開設 附属中高、新豊洲へ移転 柏中高の人材育成 キャンパス・施設 ..... 9
芝浦工業大学	学長あいさつ ..... 11
	Centennial SIT Action、大学認証評価 ..... 12
	学部・大学院 ..... 13
	国際交流 ..... 15
	男女共同参画 ..... 17
	研究・技術開発 ..... 18
	研究・開発事例 ..... 19
	キャリア支援 ..... 21
	学生支援 ..... 22
	奨学金 ..... 22
	教育改善活動 ..... 23
	FD・SD活動 ..... 23
	クラブ・サークル活動 ..... 24
	学生プロジェクト ..... 24
	生涯学習の取り組み ..... 25
	地域連携の取り組み ..... 25
	卒業生支援 ..... 26
	広報活動 ..... 26
芝浦工業大学 附属中学 高等学校	校長あいさつ ..... 27
	教育の特色 ..... 27
	生徒の活動・活躍 ..... 28
	入試結果 ..... 28
	進路状況 ..... 28
芝浦工業大学 柏中学 高等学校	校長あいさつ ..... 29
	教育の特色 ..... 29
	生徒の活動・活躍 ..... 30
	入試結果 ..... 30
	進路状況 ..... 30

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1991 ▶平成3年  
システム工学部を開設、3学科を開設

2006 ▶平成18年  
東京都江東区に豊洲キャンパス開校  
芝浦キャンパスは取り壊し、再開発計画に入る

2014 ▶平成26年  
文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業に採択

1995 ▶平成7年  
大学院工学研究科博士(後期)課程、地域環境システム専攻、機能制御システム専攻を開設

2008 ▶平成20年  
システム工学部に生命科学科開設  
工学部二部を廃止

2015 ▶平成27年  
芝浦工業大学柏中学高等学校第3グラウンドを開設

1997 ▶平成9年  
先端工学研究機構を設置

2009 ▶平成21年  
東京都港区に芝浦キャンパスを開校。デザイン工学部デザイン工学科を開設。システム工学部をシステム理工学部に変更し、併せて数理科学科開設

2016 ▶平成28年  
さいたま市見沼区に東大宮学生寮を開設  
大宮キャンパス開校50周年  
大宮キャンパスに正門を設置

1999 ▶平成11年  
芝浦工業大学柏中学校を設置

2011 ▶平成23年  
大学院工学研究科を理工学研究科に名称変更し、システム理工学専攻を開設

2017 ▶平成29年  
デザイン工学部デザイン工学科を再編  
大学院理工学研究科に国際理工学専攻を設置  
豊洲キャンパスに製図棟「アーキテクチャープラザ」を開設  
大宮キャンパス総合グラウンドを開設  
建築学部建築学科を開設  
芝浦工業大学中学高等学校を江東区豊洲に移転し、新校舎を開校  
併せて芝浦工業大学附属中学高等学校に名称変更

2003 ▶平成15年  
大学院工学マネジメント研究科(専門職大学院)を開設

2013 ▶平成25年  
大宮キャンパスに国際学生寮を開設

# 概要

(2017年5月1日現在)

## 法人概要

### 芝浦工業大学

学長 村上 雅人

#### 工学部

学部長 山田 純

- 機械工学科
- 材料工学科
- 電気工学科
- 通信工学科
- 土木工学科
- 建築工学科
- 機械機能工学科
- 応用化学科
- 電子工学科
- 情報工学科
- 建築学科

#### システム理工学部

学部長 渡部 英二

- 電子情報システム学科
- 機械制御システム学科
- 環境システム学科
- 生命科学科
- 数理科学科

#### デザイン工学部

学部長 古屋 繁

- デザイン工学科

#### 建築学部

学部長 堀越 英嗣

- 建築学科

※これまでの「工学部建築学科」「工学部建築工学科」「デザイン工学部デザイン工学科(建築・空間デザイン領域)」を統合し「建築学部」を開設しました。  
なお、2016年度以前の入学生については、入学時の学部・学科として在籍しています。

#### 芝浦キャンパス

〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14  
Tel:03-6722-2600(代表)  
JR山手線・京浜東北線「田町駅」より徒歩3分  
都営地下鉄三田線・浅草線「三田駅」より徒歩5分

#### 豊洲キャンパス

〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5  
Tel:03-5859-7340(代表)  
東京メトロ有楽町線「豊洲駅」より徒歩7分  
JR京葉線「越中島駅」より徒歩15分

#### 大宮キャンパス

〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307  
Tel:048-683-2020(代表)  
JR宇都宮線(東北本線)  
「東大宮駅」よりスクールバス5分、または徒歩20分

### 芝浦工業大学大学院

#### 理工学研究科

研究科長 高崎 明人

##### <修士課程>

- 電気電子情報工学専攻
- 材料工学専攻
- 応用化学専攻
- 建設工学専攻
- 機械工学専攻
- システム理工学専攻
- 国際理工学専攻

##### <博士(後期)課程>

- 地域環境システム専攻
- 機能制御システム専攻

### 芝浦工業大学専門職大学院

#### 工学マネジメント研究科(MOT)

研究科長 田中 秀穂

##### <専門職学位課程>

- 工学マネジメント専攻

### SIT総合研究所

所長 西川 宏之

- パワーエレクトロニクス研究センター
- ソフトウェア開発技術教育研究センター
- 脳科学ライフテクノロジー寄附研究センター
- グリーンイノベーション研究センター
- 高齢者住環境デザイン研究センター
- ゼロエネルギー建築研究センター
- テラーメイドマテリアル工学研究センター

### 芝浦工業大学附属中学高等学校

校長 大坪 隆明

〒135-8139 東京都江東区豊洲6-2-7  
Tel:03-3520-8501(代表)  
東京メトロ有楽町線「豊洲駅」より徒歩7分  
新交通ゆりかもめ「新豊洲駅」より徒歩1分

### 芝浦工業大学柏中学高等学校

校長 野村 春路

〒277-0033 千葉県柏市増尾700  
Tel:04-7174-3100(代表)  
東武アーバンパークライン「新柏駅」より  
スクールバス5分、または徒歩25分  
JR常磐線「柏駅」より  
スクールバス・東武バス15分

### コンプライアンス

学校法人芝浦工業大学の教職員は「学校法人芝浦工業大学教職員行動規範」に則って誇りと自覚を持ち、お互いの人権と人格を尊重し、それぞれの職務、役割の遂行に際して、誠実で高い倫理観をもって、本法人の発展に努めています。また、ユニバーシティ・ガバナンスの必要性から監査室を設置し、内部監査および公益通報などに関する業務を扱っています。このほかにも下記にあげる体制で法人内のコンプライアンスを保っています。

- 教職員行動規範の制定
- 教員倫理綱領の制定
- 公的研究費の適正な執行のための指針・規則の制定
- 個人情報保護規程およびガイドラインの制定
- ハラスメント防止規程の制定およびハラスメント相談員の設置
- 動物実験規程の制定
- 人事行動計画の策定
- 公益通報に関する規程の制定と相談窓口の設置(監査室) など
- 利益相反マネジメント規程の制定

#### 校章

芝浦工業大学の伝統の地、芝浦は東京湾岸に位置します。学生たちは、海から潮の香届く校舎に学びました。

1949(昭和24)年、新制大学となったときに制定された芝浦工業大学の校章は、中心に据えた大文字「大学」の下支えに波動を配したものです。立地に恵まれて躍動、発展する工業大学の息吹を表現したデザインです。

考案したのは、波形が初代学長を務めた松縄信太(元理事長)、大学の字体が事務局長であった三浦元秀(元理事長)。二人の合作です。



#### 学生・生徒数

● 大学	7,628人
● 大学院	1,070人
● 専門職大学院	26人
● 附属中学校	501人
● 附属高等学校	607人
● 柏中学校	570人
● 柏高等学校	851人

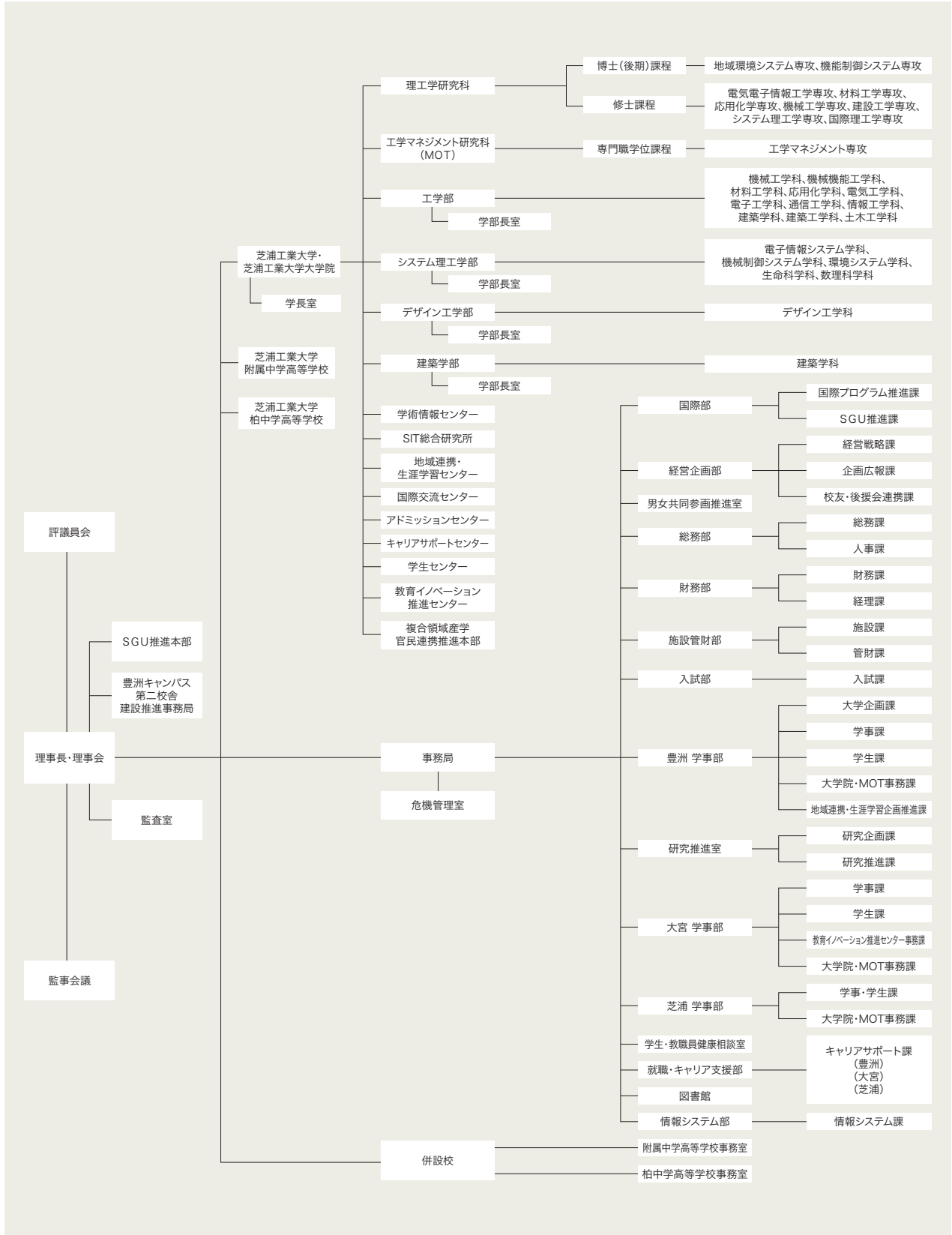
#### 教職員数

● 専任教員	
大学	325人
附属中学校・高等学校	63人
柏中学校・高等学校	77人
● 専任職員	
大学	185人
附属中学校・高等学校	5人
柏中学校・高等学校	4人

#### 施設概要

● 大学・大学院・専門職大学院	
<土地>	210,741.05㎡
<建物>	143,197.64㎡
● 附属中学・高校	
<土地>	17,026.34㎡
<建物>	18,087.80㎡
● 柏中学・高校	
<土地>	52,737.85㎡
<建物>	15,685.63㎡

# 組織図 (2017年4月1日~)



## TOPICS

芝浦工業大学

## 建築学部建築学科 2017年4月開設

芝浦工業大学は、2017(平成29)年4月に「工学部 建築学科」「工学部 建築工学科」「デザイン工学部 デザイン工学科(建築・空間デザイン領域)」の2学科1領域を統合・再編し、「建築学部 建築学科」を開設しました。創立100周年を迎える2027年、名実ともに理工系私学のトップになる目標を掲げており、その実現のための大学戦略の一環として、「芝浦建築の歴史と伝統」を継承し、未来につなげる新しい建築教育を展開していきます。



## 建築学部の特色

- 1学科3コース制の特色ある教育
  - ①APコース 先進的プロジェクトデザインコース  
Advanced Project Design Course
  - ②SAコース 空間・建築デザインコース  
Space and Architectural Design Course
  - ③UAコース 都市・建築デザインコース  
Urban and Architectural Design Course
- 芝浦工大初「豊洲」キャンパスでの4年間一貫教育  
 本学初の豊洲キャンパスでの都心一貫教育となります。歴史と先進性が共存し、多くの建築的研究テーマが発見できる豊洲というフィールドで幅広い知識と感性を養います。

芝浦工業大学

## 国際理工学専攻、国際コース 2017年4月開設

## 国際理工学専攻

芝浦工業大学大学院理工学研究科は、2017(平成29)年4月に国際理工学専攻を新たに開設しました。既存の理工学専攻を横断的に網羅し、なおかつグローバル化に向けた高度教養教育を行うことにより、高度な専門知識の習得とともに社会で必要とされる理工学に関する高度な知識と能力を与えることを目的としています。

専門講義科目はすべて英語で行われ、論文の作成や発表

もすべて英語で行うことを基本とします。さらに、日本人学生の場合は、最低1クォーター(3ヶ月程度)の協定校への海外留学を、また外国人学生の場合は、国内でのインターンシップやグローバルPBLの参加が必修となっています。



## システム理工学部国際コース

芝浦工業大学システム理工学部の電子情報システム学科、機械制御システム学科、生命科学科(生命医工学コース)に、2017(平成29)年4月より国際コースを新たに開設しました。

これまでのシステム理工学部が取り組んできた分野横断型の学びに加えて、1セメスター(6ヶ月程度)以上の海外協定大学への留学、卒業単位の1/4以上を英語による学修で取得、英語による総合研究(卒業研究)の実施など先進的なカリキュラムでグローバル人材の育成を目指します。



## 2017年4月、新豊洲に完成した新校舎に移転 他に例を見ない中学男子校・高校共学校の試み

**新** 豊洲への移転を機に、高校入学生から19人の女子生徒を受け入れました。将来、芝浦工業大学への進学を目指す理工系志望の生徒として、進路を明示しながら理系女子を募集するのは他の学校ではできない、本校ならではの試みです。併せて、高校入学生(女子だけでなく男子も同数募集)のための理科実験やものづくり体験を織り込んだ独自のカリキュラムも準備しました。さらに、入試、行事、クラブ活動、学園生活のほか、制服やロゴマークなどを刷新。校名も芝浦工業大学中学高等学校から芝浦工業大学附属中学高等学校へ変更し、新たな学校に生まれ変わりました。



新豊洲校舎には理科実験室3室、技術工作室2室、コンピューター教室2室、さらに大型の工作機械で製作ができるファクトリーをすべて1階に配置。また本校のルートと関係の深い鉄道の技術資料などを展示する“しばうら鉄道工学ギャラリー”も玄関横に開館しました。中高校舎ではまれに見る、画期的な理工系教育フロアです。ゆったりとしたカフェテリア、充実した体育施設、さらにアクティブ・ラーニングや英語コミュニケーション、プレゼンテーションに特化した教室を整備。全館Wi-Fi、全教室に最新のICT設備を備えた、芝浦工業大学の附属校にふさわしい教育環境が整いました。

## ‘グローバル・サイエンス人材’育成に向け、 さまざまな取り組みを展開

**芝** 浦工業大学柏高等学校では、文部科学省より「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を5年間(2004～2008年度)受けた後、その取り組みをベースとした独自のサイエンス教育を行ってきました。中学校では一人一台のタブレットPCを持たせ、生きた道具としてフルに活用させつつ、さまざまな取り組みを行っています。また、各種の科学コンクールや「全国中学校Webコンテスト」などで多くの成果もあげてきました。



「ワイド」による授業風景

これまでの成果をもとに、グローバル社会に対応できる思考力を育成するため、2015(平成27)年度より高等学校にコース制を導入。高等学校のグローバル・サイエンスクラスでは、従来のサイエンスの取り組みに加え、英語による論文執筆につながるアカデミックライティングなど国際的に活躍できる人材の育成につながるカリキュラムを採用しつつ、東大などの難関大に向けた授業を展開。多くの生徒が所属するジェネラルラーニングクラスでも、国公立大を目指す生徒向けの授業を行っています。中学校では入試成績優秀者を核としたグローバル・サイエンスクラスを設置するほか、「英語入試」を突破した、英語検定3級以上レベルの実力のある生徒を中心としたグローバル・クラスも設けました。生徒が自然に切磋琢磨できる雰囲気を醸成したうえで、一部秀でた能力などを日々の授業の中でさらに伸ばす工夫をしています。さらに、本校がこれまで行ってきたアクティブ・ラーニングや反転授業などの効果を高めるため、独自の評価基準表「SKルーブリック」を作成し、教員の授業力向上や生徒の質の高い学びにつなげるとともに、設備面でも中学1年の全クラスと中学2年の1クラスに超単焦点プロジェクター一体型黒板「ワイド」を設置し、教育効果の更なる向上を目指しています。

# キャンパス・施設

## 豊洲キャンパス

TOYOSU

ビジネスと暮らしが融合する産業創造の新拠点として注目のエリア「豊洲」。そのまちびらきの年となった2006(平成18)年に誕生したのが豊洲キャンパスです。あらゆる研究設備を備え、開放性を重視したキャンパスは、芝浦工業大学が推進する、地域とのコミュニケーションを通して知識と人間力を育てる実学の実践を支えています。2017(平成29)年2月には製図室棟が新たに完成しました。工学部の3・4年生と建築学部の1年生および大学院生が学んでいます。



## 大宮キャンパス

OMIYA

広大な敷地に緑があふれる大宮キャンパス。愛称となっている「グリーンキャンパス」は、学校法人芝浦工業大学が商標登録しています(商標登録第4584482号)。工学部およびデザイン工学部の1・2年生とシステム理工学部の全学生および大学院生が学び、部活動やサークル活動の拠点にもなっています。2017(平成29)年3月には人工芝の総合グラウンドが完成しました。



## 芝浦キャンパス

SHIBAURA

2009(平成21)年4月に開校した芝浦キャンパスは、法人本部があり、デザイン工学部の3・4年生および大学院生が学ぶキャンパスです。今まさに再開発の進む芝浦エリアで刺激を受けながら学ぶことはもちろん、少し足を延ばして、東京を代表する街や施設で最先端の流行を肌で感じることができます。



## 芝浦工業大学附属中学高等学校

SHIN-TOYOSU

2017(平成29)年4月、新豊洲エリアに建設された新校舎に移転、開校しました。旧板橋校舎の約1.5倍の敷地面積と約2倍の延床面積に、最先端のICT教育設備と運動施設を備えています。新校舎は大学の豊洲キャンパスから徒歩16分の距離。他に例を見ない充実した中高大連携教育が、さらにレベルアップします。



## 芝浦工業大学柏中学高等学校

KASHIWA

増尾城址公園に隣接した自然と緑に囲まれた田園地帯に立地しています。体育の授業やクラブ活動で利用する第1グラウンドにはミストの噴出装置が埋設された最新の人工芝を導入し、校舎内蛍光灯も順次LEDに更新。さらに県道側隣接地に第3グラウンドとスクールバス用の直線道路を造成するなど、学びの場の環境づくりに力を入れています。



## 研究所

2009(平成21)年、先端的な研究活動を推進する組織として「SIT総合研究所」が発足しました。各キャンパスの研究拠点は最新設備の整った環境で、国内外の産業界と交流する場であり、研究活動に勤しむ学生の実践的技術者育成の場にもなっています。2015(平成27)年には「SIT総合研究所 テクノプラザ(共通機器センター)」という、最先端の分析機器・試験機器などを一堂に集めた新たな研究施設が豊洲キャンパスに完成し、ますます研究活動が活発に行われています。



最先端の機器が並ぶテクノプラザ

## 図書館

豊洲、大宮、芝浦の各キャンパスに図書館が設置されており、キャンパス間での図書の取り寄せが可能です。

2017(平成29)年4月現在の蔵書数は、3キャンパス合計262,255冊。図書、雑誌に加え、約8,380種の電子ジャーナル、約13,100冊の電子図書など最新鋭の閲覧環境が整備されています。

大宮キャンパスの図書館は、2011(平成23)年に大規模なリニューアルを行い、グループ学習室が設置されました。

豊洲キャンパスにも2017(平成29)年よりグループ学習室を設置し、学習の拠点として重要な施設となっています。



豊洲キャンパス 図書館



大宮キャンパス 図書館



芝浦キャンパス 図書館

## 国際学生寮

留学生と日本人学生が共同生活を送ることで国際感覚を養い、グローバル人材の育成を目指す場として、2013(平成25)年4月に大宮キャンパスにオープンしました。学生たちが日常生活やイベントを通じた異文化コミュニケーションを積極的に図る場となっています。

鉄筋コンクリート造 地上5階建 / 120室(全個室)  
 ・寮生数 112人 ・外国人比率 1:1 (56人:56人)  
 ・留学生の国籍 10カ国(アルジェリア、韓国、タイ、中国、ブラジル、ベトナム、ペナン、マレーシア、モロッコ、ルワンダ)

(2017年5月1日現在)



国際学生寮



東大宮学生寮

## 東大宮学生寮

2016(平成28)年4月より、学生相互の自主的な共同生活を通じた人間力の育成を目的とし、男子学生寮「東大宮学生寮」を開設しています。大宮キャンパスの最寄駅であるJR東大宮駅に近く、朝・夕の食事提供もあり、充実した環境で大学生活に集中できる特徴を有しています。

鉄筋コンクリート造 地上5階建 / 100室(全個室) / 管理人居室あり / 食堂 座席30席 / 朝夕食事 事前予約制(月~金)  
 ・寮生数 96人

(2017年5月1日現在)

# 芝浦工業大学

学長あいさつ

## グローバル理工学人材の育成

学長 村上 雅人

日本は世界に類を見ない「教育国家」であります。江戸時代は「士農工商」という身分制度はありましたが、すべての階級において、「読み書きそろばん」の基礎が教えられていました。日本では、教育すなわち「ひとを育てる」ことの大切さを誰もが享受しており、OECDの国際成人力調査（PIAAC）でも、国民の教養の高さが世界のトップであることが報告されています。

資源を持たざる国である日本が、世界の中で競争力を維持できてきたのは、まさに、その教育によって「ひと」を育ててきたからです。今後も、世界の先進国としての地位を堅持するためには、世界から尊敬を集める「ものづくり技術」の伝統を継承する理工学人材の育成が重要です。

ただし、グローバル化が進んだ現代社会では、世界の国々や人々と協調し、ともに協働して発展することも大切です。このようなグローバル社会の持続的発展に貢献できる若い人材を育成することが芝浦工業大学の使命と考えています。

そこで、本学は「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工学人材の育成」を大学のミッションとして掲げました。そして、この目標を達成するために、教育の質保証を進めるとともに、研



究力向上、ダイバーシティ、男女共同参画を推進し、教職員ひとりひとりが、みずから研鑽に努めることで、世界に通用する大学を目指します。そして、多くの在學生や卒業生が、本当にこの大学を選んで良かったと心から思えるキャンパスづくりに教職協働で取り組んでいきます。

## 芝浦工業大学 校歌

本学の前身校、東京高等工商学校の校歌として制定されたものが、新制大学移行後に「芝浦工業大学校歌」となりました。作詞が北原白秋、作曲は山田耕筰によるものです。



「東京高等工商学校校歌」北原白秋自筆の歌詞原稿

●北原白秋 作詞  
●山田耕筰 作曲

1 朝日に輝く 風と潮  
雄大 空あり 雲は移る  
仰げよ校旗の 翻翻たるを  
白亜の殿堂 ここに聳え  
われらが工学 英気鍾む  
芝浦 芝浦 われらが母校

2 世紀に脈うつ 熱と理性  
剛健 矩あり 常に鍛ふ  
行へばがらに 洗刺たれや  
師弟の純情 一に依りて  
磨くにこの技 神に通ず  
芝浦 芝浦 われらが母校

3 永遠に栄ゆく 意志と秩序  
誠実 ただあり 道は徹る  
夢むな空理の 漠々たるを  
精微をきはめて 事に即かば  
工学日本 大を成さん  
芝浦 芝浦 われらが母校

# Centennial SIT Action

芝浦工業大学は、100周年を迎える2027年に、アジア工科大学のトップ10に入るという目標を設定しました。これは、私立理工系大学として唯一、スーパーグローバル大学 (Top Global University) に文部科学省から選定されたことを意識したものです。

世界のグローバル理工系大学に向かって進むために、大学として、つぎの5項目からなる取り組み課題を据え、Centennial SIT Actionとして宣言しました。

- 1 理工学教育日本一
- 2 知と地の創造拠点
- 3 グローバル理工学教育モデル校
- 4 ダイバーシティ推進先進校
- 5 教職協働トップランナー

これら取り組みに対し、常に数値データ(KPI: Key Performance Indicator)をもって行程を管理し、PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクル展開による目標達成に臨みます。数値目標には、学生の学修時間数、日本人学生海外経験率、学生の英語力、外国人留学生比率、教員の年間論文件数、企業等との受託・共同研究件数、女性教員比率、女子学生比率などを含んでいます。100周年には真のスーパーグローバル大学たることを目指して、「常に前進する文化の醸成」をモットーに教員と職員と学生が協働で前進していきます。

## 「工大サミット」を発足

日本の工科大学が互いに連携しグローバルに活躍できる人材育成に取り組むことを目的に、大阪工業大学、愛知工業大学、広島工業大学、福岡工業大学へ構想を提案、「工大サミット」を発足しました。教育・研究活動に関する情報共有、各種事業の共催などをベースに強固な協力関係の構築を目指します。その活動に係る意思決定を公開し、産業界・高校関係者などの意見を反映するとともに、現状を発信する場とします。

## ■ 大学認証評価



芝浦工業大学は(財)大学基準協会による大学相互評価ならびに認証評価受審の結果、大学基準に適合していると認定されました。

※「認証評価」とは、教育研究水準の向上に資するため、学校教育法第109条に定める、文部科学省の認証を受けた「認証評価機関」による評価を指し、すべての大学はこの評価を法令で定める期間ごとに受審することが義務付けられています。

認証期間：2012(平成24)年4月1日～2019年3月31日

## Centennial SIT Action 100周年(2027年)の芝浦工大

# アジア工科大学トップ10



大学の使命 (University Mission) 世界に学び、世界に貢献するグローバル理工学人材の育成

# 学部・大学院

## 工学部

### 創造性豊かな人材を育成する

工学部は、確かな基礎学力の上に工学を学び、社会に貢献できる創造性豊かな人材たる能力を有し、さらに幅広い能力を身につけるべく、国際的な視点に基づいた技術者教育プログラムに取り組み、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

#### [学修・教育目標]

- 豊かな人格形成の基本と基礎的な学力を養い、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につけている。
- 工学の本質を体系的に理解し、課題を解決する能力を身につけ、関係する人々とのコミュニケーションを図りながらチームで仕事をすることができる。
- 複数のアプローチ、制約条件、社会に与える影響を考慮した、問題の解決方法を導き出し、問題を解決することができる。
- 世界水準の工学技術者教育および多彩な海外経験を通じ、世界と社会の多様性を認識し、高い倫理観を持った理工学人材として活躍できる。

#### 機械工学科

工学の基幹ともいえる総合分野で、基礎科学を重視しながら周辺工学との融合を図り、人と社会との調和を目指します。

#### 機械機能工学科

機械工学をベースに人や環境と調和した新しい「機能」を発想し、実現するための教育と研究を目指します。

#### 材料工学科

金属、セラミックス、有機材料、半導体などあらゆる材料を扱い、産業界が求める新しい材料開発を目指すエンジニアを育成します。

#### 応用化学科

プラスチックをはじめ、電子機器、医薬、農業、環境衛生などさまざまな産業で利用されている化学の知識と経験を備えた人材を育成します。

#### 電気工学科

「エネルギー & コントロール」「ものをつくる」ことを柱に、高度ハイテク化に向かう産業界に幅広く対応する人間性豊かな人材を育成します。

#### 電子工学科

現代社会の基盤として広く使われる電子工学。環境技術やバイオテクノロジー、ナノテクノロジーと融合しさらに高度な技術革新を目指します。

#### 通信工学科 (2018年 情報通信工学科に改称)

モバイル・ワイヤレス通信、通信ネットワーク構築、マルチメディア通信など次世代の情報通信技術を担う技術者を養成します。

#### 情報工学科

「コンピュータを利用して人間の社会と生活を豊かにする技術」を幅広く学びます。技術の根底にある原理を理解しそれらの応用力、創造力を養います。

#### 土木工学科

総合システムである土木工学を大局的にとらえ、オールラウンドな知識とバランス感覚を持った土木技術者を育てます。

## システム理工学部

### 統合力と創造思考で次代を拓く

システム理工学部は、理工学の基礎知識と幅広い専門分野の知識に加え、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法、すなわち総合的解決策を追求する「システム思考」、目標達成の機能を作る「システム手法」、および問題解決の人・知識・技術を統合する「システムマネジメント」を修得し、地域と人類社会の発展に貢献する高い倫理観を持ち、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

#### [学修・教育目標]

- 地球的観点から多面的に物事を考える幅広い教養を備え、他分野・異文化と相互理解・交流し、社会や世界の問題解決に取り組み、高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。
- 科学技術の知識を修得するとともに、これを総合して問題解決するまでの行動計画を推進するためのシステム思考を修得し、問題を発見し、総合的解決策を導き出すことができる。
- 社会の問題解決に必要なシステム工学の理論とその運用能力を備え、人・知識・技術をマネジメントし、関係する人々とのコミュニケーションを図りながらチームで仕事ができる。
- 専門的知識とその運用能力を備え、問題解決に必要な知識・スキルを認識し、不足分を自己学修し、問題を解決できる。

#### 電子情報システム学科

ソフトウェア分野、メディア・ネットワーク分野、ハードウェア分野を総合的に学習し社会的、技術的に確かなシステムを構築できる人材を養成します。

#### 機械制御システム学科

多様な要求に応える機械システムを開発するため、人との環境を総合し最適化するために必要な原理や思考(システム工学)を学修します。

#### 環境システム学科

身の回りの施設から、国土、地球規模の環境をシステムとして総合的にとらえ、21世紀社会の環境問題の解決を目指す人材を育成します。

#### 数理科学科

数学を中心とする基礎科学を確実に学びながらシステム工学手法を用いて応用問題にも取り組める「数理エンジニア」を育成します。

#### 生命科学科

##### [生命科学コース]

バイオテクノロジーをもとに、薬理学、遺伝、環境などの観点から老化のメカニズムを解明し、解決方法を導き出します。

##### [生命医工学コース]

メカトロニクスを学んだ上で、福祉・医療支援ロボット、リハビリテーション機器など、人の生命や機能回復に役立つものづくりの手法を学びます。

本年度より工学部建築学科、建築工学科および、デザイン工学部デザイン工学科(建築・空間デザイン領域)を建築学部建築学科として再編し、デザイン工学部デザイン工学科(エンジニアリングデザイン領域)(プロダクトデザイン領域)も再編しました。昨年度までの入学生はそれぞれ入学時の学部・学科および領域の学生として在籍します。

## デザイン工学部

### 歴史の伝承と新しい知の創造

デザイン工学部は、社会が求める「あるべき姿(当為)」を構築する設計科学技術」を身につけ、工学的知識と技術を基礎として、人間の感性および社会との調和・融合を図り創造的ものづくり能力、すなわちものづくり全体を表現するための1)認識力、2)構想力、3)計画力、4)意匠・設計力というデザイン能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

#### 【学修・教育目標】

- 技術と人間・社会・自然との関連について幅広い知識を身につけ、地球的視点・歴史的視点をふまえながら多面的に物事を考えることができる。
- 技術が世界と社会、自然に及ぼす影響や効果、そして社会に対して負っている責任を理解し、技術者として高い倫理観に基づき行動できる。
- 社会的要請や利用者からの要望を理解し、関係する人々とのコミュニケーションを図りながらチームで仕事ができる。
- 専門領域の知識・技術を修得して意匠力・設計力を身につけ、これらをものづくりの場で応用して問題を解決できる。

### デザイン工学科

#### 生産・プロダクトデザイン系

製品開発のプロセスをトータルに考え、製品の魅力を高める能力と、それを迅速に具体化、製品化するための生産システムを設計・管理できる能力を養成します。今後のグローバル化する社会では消費者の感性に訴える多様な製品をデザインし、少量でも効率よくタイムリーに製造していく必要があります。デザインの手法やプロセスと、最新の生産技術を相互の関連性を踏まえたくてで修得していくところに、この系の特徴があります。

#### ロボティクス・情報デザイン系

アプリから銀行ATMの画面表示まで、あるいはスマートフォンからロボットまで、情報が関わるあらゆる産業分野で活躍できる人材を育成します。このために、情報サービスの企画、ユーザインタフェースの設計、プログラミング技術、ソフトウェア設計、機器の動作を制御するためのメカトロニクス技術などを相互の関連性を理解したうえで学んでいくところが、この系の特徴です。

## 建築学部

### 90年の伝統を誇る芝浦建築の歴史と伝統を継承

建築学部は、自然科学や人文社会科学を含んだ学際的視点を持ち、豊かな建築・都市空間の創造により社会に貢献できる能力、また、多様な価値観が共存する21世紀の世界に適応できる能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

#### 【学修・教育目標】

- 歴史的発展を踏まえて建築を捉え、現代の建築を取り巻く技術的・社会的問題を理解できる。
- 自然・社会・人間に深く関わる建築に、専門家としてたずさわるための高い倫理観を身につけている。
- 自然科学や人文社会科学に関する基礎知識と、建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身につけている。
- 世界と社会の多様性を認識し、高いコミュニケーション能力を持ち、21世紀のグローバル社会で活躍できる国際感覚とチームで仕事ができる能力を身につけている。
- 豊富な教養と幅広い知識を統合・駆使し、建築や都市をめぐる現代的課題を解決できる。
- 課題の発見・解決のために、建築に関わる広範な知識・技術を自ら進んで探求し、理解しようとする姿勢を身につけている。

### 建築学科

#### APコース(先進的プロジェクトデザインコース)の特徴

災害復興、地域再生、エネルギー・環境問題などに取り組む先進的なプロジェクトを通して、グローバルな視点から建築・都市・空間をデザインします。

#### SAコース(空間・建築デザインコース)の特徴

身の回りの空間から住宅、建築などのスケールに重心を置き、幅広い領域の建築技術を総合し、建築・都市・空間をデザインします。

#### UAコース(都市・建築デザインコース)の特徴

人びとの生活する建築から都市、まちづくりなどのスケールに重心を置き、幅広い領域の建築技術を総合し、建築・都市・空間をデザインします。

## 大学院 理工学研究科

### 実務的な技術者の育成

理工学研究科は、専門分野のプロ意識を備え持ち、社会の新しい側面に対応できる能力と、それを即戦力として活用し社会貢献できる能力を養うことを教育理念としています。2017年度からグローバル化に向けた高度教育を行うことを目的とした国際理工学専攻が新設されました。

#### 修士課程

- 電気電子情報工学専攻
- 機械工学専攻
- 応用化学専攻
- システム理工学専攻
- 建設工学専攻
- 国際理工学専攻
- 材料工学専攻

#### 博士(後期)課程

- 地域環境システム専攻
- 機能制御システム専攻

## 専門職大学院 工学マネジメント研究科

### 技術のわかる次世代の経営幹部の養成

※本年度から新規入学生の募集を停止しました。

社会・経済のグローバル化が進展する中で、企業をはじめあらゆる組織が変革を迫られています。その変革の原動力は「新しいアイデアを新規の製品やサービスに具現化する、あるいは既存の製造プロセスや業務フローの革新を実現する」イノベーションにあります。

工学マネジメント研究科(MOT)は、そのイノベーションの担い手を育成することを目標としており、技術と経営の一体化、理論と実践の融合を目指し、組織各層が共有すべきイノベーション実現に必須となる生きた知識と思考法を提供します。

MOT: Management of Technology

#### 専門職学位課程

- 工学マネジメント専攻  
(財)大学基準協会より、経営系専門職大学院の適合認定を受けました。

認証期間: 2014(平成26)年4月1日～  
2019年3月31日

# 国際交流

## スーパーグローバル大学取り組みの概要

芝浦工業大学では単に英語が話せるだけでなく、海外の学生や技術者と専門分野のコミュニケーションも取ることができる「グローバルエンジニア」の育成を視野に教育を行っています。こうしたスキルは、海外英語研修や海外協定校との課題解決型学習、産学官連携による人材育成プログラムなどを通じて養われます。一方、留学生受入については、学位取得を目的とした留学生向けに実施される外国人向け入試の試験方法の多様化に加え、主に短期留学生を対象に英語による授業開講を実施し(約140科目)、東南アジアをはじめとする多様な国々からの留学生を受入れています。



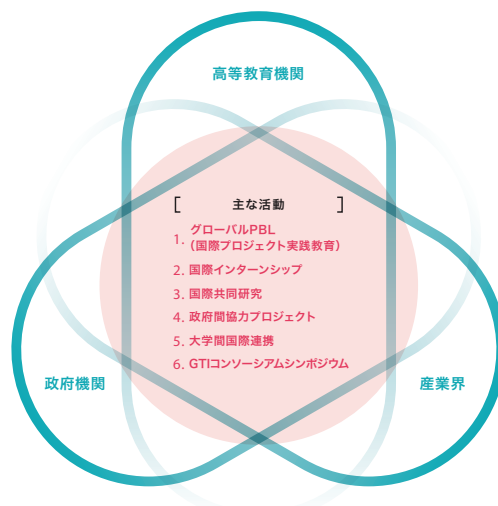
## GTIコンソーシアム取り組みの概要

産業の発達とともに急速に加速するグローバル化に対応するため、芝浦工業大学は日本と東南アジアを中心とした国際産学官連携のアライアンスであるGTI(Global Technology Initiative)コンソーシアムを2015(平成27)年12月に設立しました。

2016(平成28)年度はメンバー企業や行政機関から課題設定をいただいたグローバルPBL、インターンシップや企業見学を多数実施しました。

12月には「海外から見たGTIコンソーシアム」をテーマにシンポジウムを開催し、10カ国、100機関以上から約300人の参加がありました。シンポジウム終盤では、メンバー大学の学生を対象に実施したコンペティションで選ばれたGTIコンソーシアムのロゴマークが発表されました。

2017(平成29)年度も引き続き国際的な産学官連携による人材育成とイノベーションの創出を推進してまいります。



### GTIコンソーシアム 運営委員会構成機関一覧

工学院大学 / 東京電機大学 / 東京都市大学 / 東京理科大学 / 独立行政法人国際協力機構(JICA) / 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) / 独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO) / 株式会社商工組合中央金庫 / 株式会社IHI / 株式会社NTTデータ / キヤノン株式会社 / 東京東信用金庫 / トヨタ自動車株式会社 / 株式会社フジクラ / 株式会社三井住友銀行 / 三井住友建設株式会社 / 三菱電機株式会社 / 芝浦工業大学

## グローバルPBL

海外の学生と特定の専門分野における課題解決に取り組むプログラムです。様々なバックグラウンドを持つチームメイトとのディスカッションや共同作業を通じて、グローバル人材に必須となる4つの能力(コミュニケーション力、グローバル人間力、異文化理解力、問題解決能力)を身につけることを目指します。



## 工学英語研修

東南アジア各国の名門理工系大学へ約2週間渡航し英語を学ぶプログラムです。内容は一般的な英語にとどまらず、エンジニアリングに関連したテーマや、プレゼンテーション技法なども学びます。現地学生との交流や、現地企業の工場見学や研究室訪問も行い、現地の異文化に触れつつ、世界で活躍できる技術者となるための基礎力を養います。





## 海外インターンシッププログラム

外国人の習慣・発想・考え方に触れながら実社会を経験する海外インターンシッププログラムを日系企業を中心に実施しています。

### 2016(平成28)年度海外インターンシップ研修生受入企業(一部抜粋)

企業名	学科	行き先	研修内容
FPT Corporation	情報工学科	ベトナム (ハノイ)	・ソフトウェア要求仕様書など文書翻訳 ・日本語講座講師 ・顧客=FPTsoftware間の通訳 ・採用面接の立会い
三井住友建設	建築工学科	フィリピン (マニラ)	・各部署の業務内容講義+一部体験 ・現場見学
	建築工学科	タイ (バンコク)	・現場見学 ・施工管理講義 ・現場作業改善提案 ・現場作業体験 ・会議参加
ボッシュ	電気工学科 電気電子情報 工学専攻	ベトナム (ホーチミン)	社内別部署向けのソフトウェア 開発(組み込みソフトウェア)
日本工営	土木工学科 環境システム学科	ベトナム (ハノイ)	・現地調査同行 ・会議出席
AMADA	生命科学科	アメリカ (ロサンゼルス近郊)	・同社の加工機械を用いた製品 2種の製造(設計および加工)
オリエンタルモーター	電気工学科 (2人)	シンガポール	・製品の講義 ・工場見学 ・製造ラインの改善点提案
マブチモーター	電気工学科	中国 (広東省東莞)	・モーターの性能測定と寿命試験 ・工場見学 ・サンプル製品の製作
三菱エレベーター	生命科学科	タイ (バンコク)	・製品の講義 ・仕様書とカタログの翻訳
鹿島建設	建設工学専攻 (2人)	タイ (バンコク)	・タイの建築の講義 ・都市計画の講義 ・現場見学 ・設計実習(実際の案件ベース)

### 海外協定締結校(一部抜粋)

国	大学名称
アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校、デービス校 グアム大学
イタリア	ラクイラ大学
インド	インド工科大学 マドラス校
インドネシア	ガジャマダ大学
オーストラリア	クイーンズランド大学
オーストリア	ウィーン工科大学
オランダ	ヴィンデシュハイム大学
スイス	スイス連邦工科大学ローザンヌ校
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学
タイ	キングモンクット工科大学 泰日工業大学
フィンランド	バーサ工科大学
フランス	パリ・ベルヴィル建築大学
ベトナム	ハノイ理工科大学 FPT大学
ポーランド	ポーランドアカデミー科学技術大学
マレーシア	ウタラマレーシア大学 マレーシア工科大学
ロシア連邦	モスクワ建築大学
台湾	国立清華大学 国立台湾科技大学
大韓民国	漢陽大学 延世大学
中国	東北大学



## 国際交流

### 東南アジア理工科系大学との連携

留学生受け入れの代表的な取り組みとして、東南アジア諸国を対象とした2つのツィニングプログラムを推進しています。そのうちの1つである「マレーシア・ツィニングプログラム」は、マレーシア政府が実施する留学生派遣事業であり、マレーシアでの教育（3年間）と日本での教育（2年間）のツィニングにより、日本の大学にて学士号を取得するプログラムです。本学はプログラム開始以来20年以上にわたり、日本の受け入れ大学コンソーシアムの幹事校として、これまでに約150人（コンソーシアム全体で約1,400人）の留学生を受け入れています。

もう1つのツィニングプログラムである「ハイブリッド・ツィニングプログラム」は、修士課程と博士課程を複合（ハイブリッド）して、協定を結んだ東南アジアの代表的な理工系大学と連携（ツィニング）し推進するプログラムです。協定校から、修士1年次を修了した優秀な学生を本学修士課程2年次に、また、協定校の修士課程修了者を本学博士課程に受け入れ、英語による教育・研究指導を行います。本学修士課程修了後または、協定校から直接本学博士課程に進学し、博士号を授与する大学院国際教育プログラムです。



## 男女共同参画

### 「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」最高評価をステップに

芝浦工業大学は、Diversity&Inclusionの一環として、男女共同参画を推進しています。理事長・学長のリーダーシップのもと、Centennial SIT Action、文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」（一般型）（2013年～2015年）、同連携型（2014年～2016年）を通じて、女性教員の積極的採用と研究力強化、出産・育児・介護等の時期にも教育研究活動の水準を維持できる環境の整備に取り組んできました。その結果、2013（平成25）年度に26人であった女性教員は2017（平成29）年度には49人へと倍増しました。また、科学研究費助成事業採択件数に占める女性研究者による研究は、2013（平成25）年度の9件（9.8%）から2016（平成28）年度には20件（17.7%）へと上昇しています。こうした積極的取組と成果が評価され、本学の「女性研究者研究活動支援事業」（一般型）は同年度採択13機関中唯一、最高評価「S評価」を獲得しました。実績をステップに、女性をはじめ誰もが学び・働きやすく・活躍できる大学づくりを着実に推進していきます。



女性研究者研究活動支援事業（連携型）シンポジウム/ワークショップ「女性研究者のグラスシーリングを破る—工学系女性研究者がいつそ輝ける社会に向けて—」（2016年12月10日、芝浦キャンパス）

# 研究・技術開発

## “SIT研究ビジョン” ～知と地の創造拠点・芝浦型ERC構想～

芝浦工業大学では、創立100周年にむけた大学戦略 Centennial SIT Actionにおいて、「知と地の創造拠点」の構築を掲げました。これは研究力強化策として、国際共同研究を通じた世界レベルの研究拠点形成と地域自治体や中小企業との共同研究を通じた社会貢献を両輪として進めていくものです。

連携研究の推進にあたっては、複数の多様な研究室が有機的に交流し、共通の課題解決にむけた取り組みを期待すべく、4項目の重点研究領域\*を設定しています。そして、これらの研究の場が、芝浦型Engineering Research Center (ERC) です。基礎研究→知的財産の形成→プロトタイプまでを切れ目なく推進する仕組みで、社会実装を目指します。また芝浦型ERCは、大学研究者だけでなく、企業研究者・学生も参画し、様々な立場の人材が切磋琢磨する場でもあります。

こうした研究活動の推進役が産学官連携コーディネーター・URAです。彼らは、社会と大学、大学内での横断的連携研究を進める要となっています。

大学の使命は、「価値創造」と、その活動を通じた「人材育成」です。芝浦工業大学は、企業、行政、地域と協働し、輝かしい未来に貢献していきます。

※4つの重点研究領域：①クオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上②超スマート社会(Society5.0)の実現③グリーンイノベーションの創出④ものづくり先端基盤技術の確立

### 産学官連携活動実績 (2016(平成28)年度)

- ① 受託・共同研究実績：228件／219,100千円
- ② 競争的資金の活用：公的資金の獲得額(科研費を除く)52件／469,500千円
- ③ 科学研究費助成事業：113件／233,920千円
- ④ 技術相談への対応：技術相談件数233件(うち共同・委託研究への発展43件)
- ⑤ 特許出願数：30件(国際出願含む)



浦和美園地区での都市デザインスタジオ最終発表会



2輪車用転倒防止システムのプロトタイプ1号

## 技術マッチング・地域共創イベントを開催

企業に新製品や技術開発のヒントを発見してもらい、大学との技術マッチングを目指すイベントとして、「産学官連携研究交流会」を行っています。芝浦工業大学の幅広い分野の研究室によるパネル展示や、本学の産学官連携コーディネーターとの技術相談会などが行われます。

また、大学教員、学生が参画した地域課題解決の活動を広く公開するイベントとして「地域共創シンポジウム」「COC学生成果報告会」を開催しています。学生の活躍・成長を企業、行政、地域の方々を知っていただくとともに、芝浦工業大学の研究がどのように地域に貢献しているか、学生が自分の言葉で発表する機会となり、実践的な人材育成の場にもなっています。



建設工学演習・プランニングでの学生発表



COC学生成果報告会でのポスターセッション

# 2016年度の研究・開発事例

## スターリングエンジンとソーラーパネルで 電気とお湯を非常時に供給できる電源車を開発

高見弘教授(電気工学科)は、スターリングエンジンとソーラーパネルを組み合わせ、災害時などに電気とお湯を供給できる軽自動車型ハイブリッド電源車を開発しました。3kgの木質バイオマスペレットを1時間燃焼し1kWの電力と45℃・200Lの温水を提供できるスターリングエンジンと、日中は1時間で最大600Wが発電できるソーラーパネルにより、発電とともに48V,110Ahの蓄電池に充電することも可能なシステムを軽トラックの荷台に収まるサイズで構築しました。



スターリングエンジン発電機(1kW)を搭載した軽自動車

## 白金触媒の性能に迫る炭素複合材料の合成に成功



ソリューションプラズマ処理

石崎貴裕准教授(材料工学科)は、ソリューションプラズマ処理を用い、窒素含有カーボン(NCNP)とカーボンナノファイバー(CNF)からなる「NCNP-CNFコンポジット材料」を新開発しました。レアメタルを使わず常温環境下で合成でき、触媒性能も白金担持カーボンに近く、長期安定性とメタノールに対する耐久性は既存の白金担持カーボンより優れた性能を示します。今後、家庭用燃料電池や電気自動車の低コスト化が進み、低炭素社会への一助となることが期待されます。

## 快適性と省エネ化を両立する 新しい車内空調システムの実現を目指す

伊東敏夫教授(機械制御システム学科)は、カルソニックカンセイ株式会社と共同で、車内を人それぞれの快適温度に保ちつつ空調を最小限にして、自動車の燃費性能向上も実現する、次世代空調システムの開発に向けた研究を開始しました。心拍データから、温度変化による心拍数や自律神経(交感神経と副交感神経)の動きを解析する研究を進め、ハンドルやシートへの心拍計の組み込み検討とともに、トータルシステムの構築を目指します。



ドライブシミュレータを使用して実験

## 日本初、上屋が膜素材でできた スキー場リフトのターミナルを共同開発

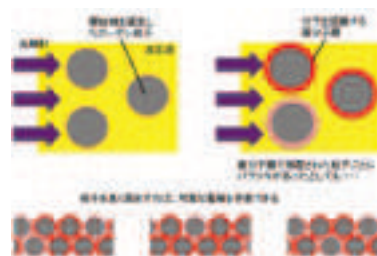


「コクーン(Cocoon)」製品イメージ

谷口大造教授と横山太郎特任准教授(共にデザイン工学科)は、安全索道株式会社と共同で上屋が膜素材でできたスキー場リフトのターミナルを新たにデザインし、「コクーン(Cocoon)」として製品化が決定しました。雪かきなどの手間がいらす素材自体も従来の鉄製より高耐久で、膜の透過性を活かした光演出も可能。基本計画からデザインの改良を重ね、価格面でも従来品より安価にすることができました。スキー場への設置に向けて営業を行っています。

## 血液中でも高い感度と再現性を示すヘパリンセンサを開発

吉見靖男教授(応用化学科)は、分子インプリント高分子とカーボンペーストを利用して、血液中でも高い感度と再現性を示すヘパリンセンサを開発しました。血液の凝固を抑える薬で、人工心肺を用いる心臓切開手術では不可欠なヘパリンの、厳密な濃度管理を目的として、従来の血液凝固時間を計って「ヘパリンの効き具合」を判定する方法に替わり血液中のヘパリンの濃度を直接監視できるセンサの開発にいたしました。



特定物質を測定する新しい方法

## 汎用ネットワークでリアルタイムに接続し、複数種のロボットを連携させる基礎実験に成功



スマホロボによる商店街での実験の様子

まつひろ 松日樂信人教授(機械機能工学科)と産業技術大学院大学産業技術研究科は、複数拠点に置いたロボットやデジタルサイネージをネットワークでつなぎ、ロボットアンケートラリーを実施する実証実験を東京都江東区の深川資料館通り商店街で行いました。ロボット同士のネットワークが活用できると、行動履歴による子どもや高齢者の見守り、観光案内(複数言語対応可)などにも役立てることができます。今後人の動線検出やさらに多くのロボットによる実験の実施を予定し、実用化に向けた研究を進めていきます。

## クリーンな新エネルギーに挑む、小型波力発電システム開発

諏訪好英教授(機械工学科)は、波のさまざまな動きを水平方向に変換し、さざ波程度の小さな波でも発電ができる、小型波力発電システムを開発しました。従来の波力発電装置に比べて発電量は少ないものの、小型なため、設置も簡易で低コスト、メンテナンスも簡単といった特徴を持ちます。養殖場での水温・水質のモニタリングなど、設置施設内で消費する電力を生み出すことが期待される本システム。今後、企業との連携を行うことで、実用化を目指します。



往復水流に対して、一方向の回転を作り出す実験用タービン

## 芝浦・港南地区の倉庫をリノベーション「芝浦まちづくりセンター」



築50年の頑健なコンクリートを活かした改修後の内観

西沢大良教授(建築工学科)と学生チームが、芝浦工業大学芝浦キャンパスの近くにあるJR山手線新駅予定地付近の倉庫のリノベーションを行った交流施設「芝浦まちづくりセンター」がオープンしました。西沢研究室による地域のリサーチ資料や縮尺1/600で再現したジオラマ都市模型の常設展示を行うほか、若手建築家のトークイベントや研究室公開ゼミなどを開催し、住民と企業・大学が共にまちづくりを考える場とする予定です。

※教員の所属・職位などは発表当時のものです

# キャリア支援

## 「就職に強い」から「仕事に強い」大学へ

さまざまなセミナーやガイダンスの開催をはじめ、進路相談、エントリーシートの作成指導など一人ひとりの将来を見据えた就職支援を行っています。

また、実際に企業で活躍するOB・OGと連携し、学内企業説明会や面接対策セミナーを実施することで、就職活動に向けた実践的な対策を行っています。

2016(平成28)年度の就職率※は97.9%と私立理工系大学でトップクラスを誇っています。また、東証一部・二部上場企業への就職率は学部卒業生で49.1%、大学院修了生で59.1%と各産業界のリーディングカンパニーに多くの卒業生を輩出しており、「仕事に強い大学」として評価されています。これまでも、10万人以上の卒業生が社会で活躍し、堅実なエンジニアとして高い評価を受けています。

※ 就職率：就職希望者1,539人のうち、就職が決定した者1,507人の割合



学生対応



OB面接指導

## 就職先企業ランキング

(単位：人)

順位	就職先企業	総計 (うち女子)	順位	就職先企業	総計 (うち女子)	順位	就職先企業	総計 (うち女子)
1	東日本旅客鉄道(株)	31	17	富士ソフト(株)	8		スズキ(株)	5
2	東海旅客鉄道(株)	24		清水建設(株)	7(2)		大成建設(株)	5
3	本田技研工業(株)	22(2)		(株)大林組	7(1)		凸版印刷(株)	5(3)
4	積水ハウス(株)	12(4)		セイコーエプソン(株)	7		日野自動車(株)	5
	(株)竹中工務店	12(5)		NOK(株)	7		ミネベアミツミ(株)	5
	日本発条(株)	12		NECネットエスアイ(株)	7(2)		東京地下鉄(株)	5
7	(株)SUBARU	11(1)		警視庁	7(1)		(株)長谷工コーポレーション	5(1)
8	東京都特別区	10(1)	23	独立行政法人都市再生機構	6(1)		富士電機(株)	5(1)
9	大和ハウス工業(株)	9(3)		パナソニック(株)	6		西松建設(株)	5(1)
	いすゞ自動車(株)	9		三菱電機(株)	6(1)		前田建設工業(株)	5(1)
	戸田建設(株)	9		鹿島建設(株)	6(2)		高砂熱学工業(株)	5(1)
	東京都庁	9(2)		オリンパス(株)	6(1)		旭化成ホームズ(株)	5(3)
	横浜市役所	9(1)		(株)LIXIL	6(2)		埼玉県教育委員会	5
14	日本電気(株)	8(1)	29	富士通(株)	5(1)			
	住友林業(株)	8(2)		キヤノン(株)	5(1)			

## 2016(平成28)年度業種別就職情報

(単位：人)

学部	学科名	卒業生数	大学院進学	進学率	就職者数	業種別就職者数													進学・就職以外
						建設 関連業	製造業	電気・ ガス	情報 産業	通信・ マスコミ	運輸業	卸売・ 小売業	金融・ 保険	サービス 業他	教職	公務員			
工学部	機械工学科	105	42	40.0%	62	3	43	0	2	0	7	1	0	4	0	2	1		
	機械機能工学科	97	41	42.3%	54	1	41	0	0	0	3	3	0	3	0	3	2		
	材料工学科	108	54	50.0%	53	1	38	0	4	0	3	3	0	2	1	1	1		
	応用化学科	109	49	45.0%	57	5	37	0	3	0	0	4	2	4	2	0	3		
	電気工学科	98	37	37.8%	60	13	24	1	3	0	7	2	0	8	0	2	1		
	通信工学科	102	24	23.5%	74	9	23	1	25	3	2	1	0	9	1	0	4		
	電子工学科	85	31	36.5%	52	2	29	1	6	2	4	2	0	2	0	4	2		
	土木工学科	78	11	14.1%	66	26	0	1	0	0	13	0	0	1	0	25	1		
	社会基礎コース	18	2	11.1%	16	8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	6	0		
	計	96	13	13.5%	82	34	0	1	0	0	13	0	1	2	0	31	1		
	建築学科	95	44	46.3%	49	39	0	0	1	0	1	1	0	1	0	6	2		
	建築工学科	109	39	35.8%	67	50	2	0	0	0	1	3	0	6	0	5	3		
	情報工学科	116	36	31.0%	78	1	9	0	46	2	1	7	0	12	0	0	2		
	学部 集計	1,120	410	36.6%	688	158	246	4	90	7	42	27	3	53	4	54	22		
システム理工学部	電子情報システム学科	110	23	20.9%	87	5	13	0	41	2	3	7	1	9	1	5	0		
	機械制御システム学科	67	28	41.8%	38	3	18	0	4	0	4	3	0	5	0	1	1		
	環境システム学科	79	15	19.0%	63	31	3	2	4	0	9	2	1	3	0	8	1		
	生命科学科	38	9	23.7%	28	3	12	0	0	0	0	2	1	10	0	0	1		
	生命医学コース	55	26	47.3%	29	0	12	0	5	1	0	5	0	3	1	2	0		
	計	93	35	37.6%	57	3	24	0	5	1	0	7	1	13	1	2	1		
	数理工学科	73	11	15.1%	59	2	5	0	21	1	0	5	5	8	9	3	3		
	学部 集計	422	112	26.5%	304	44	63	2	75	4	16	24	8	38	11	19	6		
	デザイン工学部	建築・空間デザイン領域	44	8	18.2%	34	25	2	0	2	0	0	2	0	1	0	2	2	
		エンジニアリングデザイン領域(マイクロシステム・組み込みソフトウェア)	36	12	33.3%	24	2	11	0	9	1	0	0	0	0	0	1	0	
エンジニアリングデザイン領域(生産システムデザイン)		37	7	18.9%	29	0	20	0	1	0	0	3	1	4	0	0	1		
プロダクトデザイン領域		48	2	4.2%	44	1	19	0	10	1	0	4	0	9	0	0	2		
デザイン工学科		165	29	17.6%	131	28	52	0	22	2	0	9	1	14	0	3	5		
学部全体 集計	1,707	551	32.3%	1,123	230	361	6	187	13	58	60	12	105	15	76	33			
大学院理工学	電気電子情報工学専攻	94	3	3.2%	90	3	44	0	20	7	6	2	0	5	2	1	1		
	材料工学専攻	44	0	0.0%	43	0	37	0	1	0	0	2	0	3	0	0	1		
	応用化学専攻	25	0	0.0%	23	0	19	1	1	0	0	1	0	1	0	0	2		
	機械工学専攻	89	1	1.1%	86	4	64	0	3	0	11	1	0	3	0	0	2		
	建設工学専攻	86	2	2.3%	78	55	2	1	0	0	3	0	0	8	0	9	6		
	システム理工学専攻	76	5	6.6%	64	0	36	0	12	0	2	1	1	9	2	1	7		
大学院全体 集計	414	11	2.7%	384	62	202	2	37	7	22	7	1	29	4	11	19			

# 学生支援

## 学生・教職員健康相談室

学生生活を過ごす上での悩みごとなどに対して、カウンセラーが相談に応じる学生・教職員健康相談室が各キャンパスに配置されています。相談は必要に応じて学外の専門家や各機関への橋渡しも行っています。また保健室機能も併設しており、学生や教職員の体調不良・ケガなどへの応急処置はもちろん、健康管理、疾病予防などの相談にも応じます。さらに月に1回学校医が相談に応じる健康相談日を設けています。大宮キャンパスに続き、2016（平成28）年度には豊洲キャンパスに「ピア・スペース」を設置。休憩場所としても利用でき、専任カウンセラーやインターカーと気軽に会話ができます。



豊洲キャンパスのピア・スペース

## 学生総合保障制度

学生生活を取り巻くさまざまな経済的阻害要因の中でも、学生が安心して学業を続けられることを目的に設置されたものです。本制度は奨学金制度と2種類の保険制度から構成されており、保険制度は学業等活動中の保障と日常生活上の保障との2面の構成になっています。本人のケガや、他人の物を壊したりケガをさせてしまったりした場合、その他の災害や傷害事故を対象としてバックアップします。なお、この保険制度に関わる保険料は、全額大学が負担しています。

# 奨学金

## さまざまな奨学金で学生をサポート

奨学金制度は、主として人物、学業ともに優れた学生、あるいは経済的理由により就学が困難な学生への経済的援助を通じ、教育機会の均等を図ることなどを目的としています。芝浦工業大学では各種類の奨学金を用意しています。

### ■貸与奨学金

- 芝浦工業大学奨学金（大学院生対象）
- 芝浦工業大学特別奨学金
- 芝浦工業大学緊急時奨学金
- 芝浦工業大学後援会自活支援奨学金
- 芝浦工業大学大学院修士課程貸与奨学金
- 芝浦工業大学専門職大学院奨学金
- 芝浦工業大学大学院進学奨励奨学金

### ■給付奨学金

- 芝浦工業大学創立80周年記念松縄孝奨学金
- 芝浦工業大学育英奨学金
- 芝浦工業大学大学院修士課程給付奨学金
- 芝浦工業大学創立80周年記念・大学院修士課程給付奨学金
- 芝浦工業大学海外留学奨励金
- 芝浦工業大学外国人学生等給付金
- エスアイテック育英奨学金
- グローバル理工系人材育成大学院給付奨学金
- 芝浦工業大学私費外国人留学生学費援助
- 芝浦工業大学大学院留学生給付奨学金 **2017年度新設**
- 芝浦工業大学大学院博士（後期）課程給付奨学金 **2017年度新設**

### | Pick up | 博士課程学生への給付奨学金を新設

#### 芝浦工業大学大学院博士（後期）課程給付奨学金

芝浦工業大学理工学研究科修士課程、工学マネジメント研究科に在学する学生のうち、理工学研究科博士課程への進学を希望する者に対する支援として、2017（平成29）年度「芝浦工業大学大学院博士（後期）課程給付奨学金」を新設しました。

給付額：学費（授業料、維持料）相当額

出願時に十分な研究業績を持つ者を対象とし、給付奨学生は「ラーニング・ファシリテーター」（教育の質の向上と学生の教育能力・研究能力の向上に資することを目的に、教育・研究の支援業務に従事する大学院生）の活動を行います。

今後も、博士課程に進学し、研究に従事したい学生を積極的に支援していきます。

## 教育改善活動

### 学習サポート室・学習相談コーナー

高校までの学びを補足する学習支援のために、学習サポート室・学習相談コーナーを3キャンパスに開設しています。教員や大学院生が待機しており、数学や英語、物理など基礎的な科目の指導から、学部によっては専門科目の相談やTOEIC対策セミナーも受けることができます。相談の事前予約は必要ありません。授業中にわからなかったことや学習の進め方についてのアドバイスなど、学習全般の相談の場としても利用することができます。



学習サポート室・学習相談コーナー

### eラーニングシステム「スーパー英語」

eラーニング(インターネットを利用した学習形態)を活用した英語学習支援として「スーパー英語」が運用されています。学内ネットワークにて事前に登録をすれば在學生は無料で使うことができ、レベル診断テストや毎週更新されるドリルなど、楽しみながら学習することができます。インターネット環境とパソコンがあれば、いつでもどこでも英語力を磨けます。



[「スーパー英語」画面]

## FD・SD活動

教育イノベーション推進センターは、2016(平成28)年、理工学教育のモデル構築とその基本的な枠組みおよび教育手法を国内に浸透させる拠点として、文部科学大臣より教育関係共同利用拠点(大学の教員・職員の組織的な研修等の実施機関)の認定を受けました。これは、各大学が持つ教育施設や機関を他大学にも供することで、大学教育全体としてより多様で高度な教育を目指すための制度であり、私立大学では2校目の認定となります。これにより、本学が目指している理工学教育のモデル構築に向けて、より活発な取り組みとなることが期待されます。また、教員個々の教育活動への支援や学科や職域の枠を越えた教育に関する考えの共有、前向きな議論の機会確保のため、以下のようなFD<sup>\*1</sup>・SD<sup>\*2</sup>活動を実施しています。

#### (1) 各教職員のFD・SD支援プログラム

- ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ
- ティーチング・ポートフォリオ完成ワークショップ
- 授業外学習を促すシラバスの書き方ワークショップ
- 授業デザインワークショップ
- 学生主体の授業運営手法ワークショップ(大学教育再生加速プログラムの補助を受けて実施)

#### (2) FD支援活動への学生参画

- SCOT<sup>\*3</sup>育成のための研修および一般教員へのSCOT利用促進

#### (3) 組織支援のFD・SDプログラム

- FD・SD講演会
- 新任教職員研修会
- 入職3年目以内教員フォローアップ研修



学生主体の授業運営手法ワークショップ

また、全国私立大学FD連携フォーラムやSPOD<sup>\*4</sup>フォーラムなどの優れたプログラムを教職員に紹介し、参加希望者には旅費などの補助をしています。

※1 FD=Faculty Development(教員の授業・方法の改善、向上の取り組み)

※2 SD=Staff Development(職員の能力開発の取り組み)

※3 SCOT=Students Consulting on Teaching(大学の授業に関連した基本的知識、授業コンサルティングに必要な技術、SCOTとしての責任感や態度を身につける研修を受け、審査・承認された学生)

※4 SPOD=Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)



# クラブ・サークル活動

芝浦工業大学には約120団体ものクラブ・サークルがあり、学生の課外活動を積極的にバックアップしています。また、課外活動で活躍する団体・個人を表彰する制度や、課外活動で使用する備品の購入を援助する制度を用意して、学生個人を成長させる機会を設けています。

## 文化会 Team Birdman Trial

毎年夏に琵琶湖で開催される「鳥人間コンテスト」での長距離飛行、上位入賞を目指し、飛行機の設計から製作までをすべて学生たちで行っています。本学伝統の2人乗りでの優勝を目指します。



▶▶ 本学卒業生で非常勤講師でもある中村航氏原作の、鳥人間コンテストを題材にした青春小説「トリガール！」はTBTがモデルになっています。2017年9月1日に全国公開の映画内では、TBTの名前やつながりがそのまま使われています。

## 体育会アメリカンフットボール部

2016(平成28)年度、3部リーグ優勝を果たし、その後のリーグ入れ替え戦にて勝利し、2009(平成21)年の創部以来初となる2部昇格を達成しました。



## 文化会クラブS.R.D.C

(Shibaura Robotics Development Circle)

2015(平成27)年度、二足歩行ロボットによる格闘競技大会「ROBO-ONE」にて、芝浦工業大学のチームが製作した機体が全国優勝しました。



# 学生プロジェクト

芝浦工業大学では、「学生プロジェクト」という制度を設け、学生の積極的な課外活動を支援しています。これは学生チームが、自由に活動テーマを決め、企画・運営する活動に対し、1プロジェクトあたり50万円を上限に大学が資金援助をするというものです。大学の外に出て社会と協働するプロジェクトも多く、これらを通じて建学の精神「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を実践する場にもなっています。

## すみだの'巢'づくりプロジェクト

墨田区の木造密集市街地で、まちの魅力を守りながら福祉・医療、地域住民、商店街など多くの人と連携し、防災相談会や防災意識を高める地域イベントやものづくり活動を行っています。



## International Communication Project

留学生と一緒に交流イベントの企画・運営を行い、異なる文化・価値を理解しあう学内の環境づくりを目指しています。留学生の学生生活サポートにも取り組んでいます。



## 空き屋改修プロジェクト

静岡県東伊豆町の空き家を、地域住民が集えるコミュニティスペースへと改修しました。全国的に増加している空き家問題を背景に空き家の改修を通じて地域の活性化を目指しています。



## 生涯学習の取り組み

社会貢献の一環として、誰もがいつでも学べる公開講座を年間約90講座開講し、約4,000人の受講者がいます。芝浦工業大学の教育・研究成果に触れることができる芝浦フロンティア講座をはじめ、語学講座、資格対策講座などを実施しています。また、小中学生を対象に、工学・科学への関心を高めることをねらいとした実験講座やロボットセミナーなどの体験型講座も開講しています。

### 開講講座の一例

#### ■ オープンテクノカレッジ(一般向け)

- 建築設計の世界
- 出雲大社の建築
- 体感！土木の現場最前線！！
- 2020年のおもてなし
- 目指そう！語学ボランティア

#### ■ オープンテクノキッズ(子ども向け)

- 理系の扉を開けよう！
- 構造デザインを学んでみよう！
- マンツーマンで学ぶ！プログラミング

#### ■ ロボットセミナー

- LED花火を作ろう
- 親子で作ろうロボットセミナー
- やさしいマイコン入門



オープンテクノキッズ



ロボットセミナー

## 地域連携の取り組み

地域と共にある大学として、積極的に地域連携に取り組んでいます。

大宮キャンパスで5月に開催される「大宮祭」、豊洲キャンパスで11月に開催される「芝浦祭」は、学生が主体となって日頃の活動の成果を発表し、模擬店の出店などでも住民の方々との交流を図っています。またキャンパス近くの文化センターや小学校にも出張講座を開講し、地域住民の方に大学の知を還元するとともに学生と子どもたちとの交流も図っています。

さらに、豊洲キャンパスに併設されている豊洲運河の棧橋を活用した「船カフェ」や「豊洲水彩まつり」、芝浦キャンパスでの「芝浦運河まつり」などを地域の方々と共に開催し、大学の立地を生かしたまちづくりにも参画しています。



豊洲キャンパスで開催している「芝浦祭」



豊洲の水辺を活用した「船カフェ」

# 卒業生支援

## ホームカミング・デー

毎年、卒業生の1日里帰り企画「ホームカミング・デー」を実施しています。同窓生が旧交をあたためる懇親会のほか、卒業生が大学時代の思い出の品を出展し、審査員と来場者による投票でグランプリを決定する企画「芝浦お宝鑑定SHIBA-1グランプリ」や現役学生の活動成果の披露など、大学の“今”と“昔”を体験できる1日となっています。



ホームカミング・デーの様子

## 里帰りゼミ

在学中にゼミ指導を行った教員と卒業生による知的交流活動を促進するため、大学が情報交換、研究活動に係る援助金を支給しています。卒業生の母校への帰属意識を高め、研修会などを通じて両者の育成を促進することを目的としています。

## 芝浦技術士会

わが国が21世紀の目標に掲げる「科学技術創造立国」の実現に向けて、技術士制度の重要性が高まっています。技術士は日本の5大国家資格の一つであり、海外での活動には不可欠な資格となります。「技術士」の資格取得者増を目的に、日本技術士会と連携し、2008（平成20）年に「芝浦技術士会」を発足しました。その後、大学技術士会連絡協議会や企業内技術士交流会にも加入し連携を図ることで活動の幅を広げています。技術士の一次試験、二次試験対策講座や技術研鑽講座などを通して世界で活躍する技術者・研究者を養成することで、大学の発展と社会貢献を目指しています。

# 広報活動

## あらゆるチャンネルで情報を発信

芝浦工業大学の教育研究その他の取り組みを多くの方々に知っていただくため、Webサイトのほか、Facebook、Twitter、LINE@、Instagramなどソーシャルメディアとの連携を取り入れつつ、タイムリーな情報の発信を行っています。

また法人の取り組みをより知っていただくため、広報誌「芝浦」を大幅リニューアルし卒業生、保護者の方々に年4回送付しています。



広報誌「芝浦」



<https://www.facebook.com/shibaura>



@sit\_pr\_staff



@shibaurait



@shibaura\_instituteoftechnology



芝浦工業大学Webサイト

# 芝浦工業大学附属中学高等学校

校長あいさつ

## 新豊洲校舎開校で新たな幕開け

校長 大坪 隆明

本校は、1922（大正11）年に鉄道省によって創設された東京鉄道中学をルーツとしています。途中、東京育英中学、東京育英高等学校と校名は変わりましたが、勤労青年のための夜間学校として、主に鉄道に従事する人たちに中等教育を受ける機会を提供してきました。1953（昭和28）年に学校法人芝浦学園（現在の学校法人芝浦工業大学）が経営を引き継ぎ、全日制が加わり、さらに1982（昭和57）年には板橋区坂下に移転すると同時に中学校課程を新設しました。

今年4月、大学のメインキャンパスがある江東区豊洲の新校舎に移転。同時に校名に「附属」を加えることで、大学との一体感を高め、中学-高校-大学と芝浦の名で世界で活躍する技術者・研究者を育てていくという本校の教育目標を鮮明にしました。芝浦工業大学へは毎年約45%の生徒が推薦入学しており、それを含めて現役で大学に進学する者のうち約4分の3が理工系学部に進学するという、日本でも有数の理工系進学校です。

数理の基礎学力に加え、英語を含めた確かなコミュニケーション力を育成していくのはもちろん、次のイノベーションをリードする発想力・思考力・行動力、そして協調性を備えた生徒を育てていくのが本校の使命です。この移転を機に、さらに教育活動の充実に努めていきます。



新豊洲校舎

## 教育の特色

### 理系教育・連携教育

中学生では「ものづくりマインドを育てる」という視点から、学年全員でものづくりを体験します。中学1年の「工学わくわく講座」ではバスタブリッジ、中学2年の「ロボット入門講座」ではビートル型ロボットを、そして中学3年の「ものづくり講座」ではいくつかのテーマに分かれて製作を行います。いずれも大学の教授の指導のもと、大学生の補助を受けながら大学のキャンパス内で実施されています。生徒たちはものづくりの楽しさを体験するだけでなく、芝浦ファミリーの一員であることも実感することになります。また今年度より高校入学生向けに「Arts&Tech」というプログラムがスタート。ライントレーサーやスターリングエンジンなどの製作に挑戦します。

さらに大学見学会、理系講座、研究室見学会など充実したキャリア教育も、芝浦にしかない取り組みといえます。



工学わくわく講座

### 言語・グローバル教育

中学男子が苦手なことばによるコミュニケーションを鍛えるため、中学1・2年次に「ランゲージアワー」という日本語運用の授業を通常教科とは別に実施しています。また上級学年では外部から専門講師を招いた「話し方講座」で、傾聴と表現手法を鍛えます。英語はネイティブスピーカー教員による対話中心の少人数クラスを展開。中学3年ではアメリカに2週間、高校入学生も2年次にカナダで1週間のホームステイを体験します。それにより本校生徒は全員が海外を体験して進学します。芝浦工業大学進学者はさらに3か月のアメリカ短期留学やセブ島での2週間プログラミング&英会話研修に参加できます。これらは芝浦工大その他から資金的支援を受けたプログラムです。生徒は安価により一歩進んだ海外経験を積み、大学生生活や就職後もその成果を発揮することができます。



英語授業

# 生徒の活動・活躍

## 運動系クラブの活躍

多くのクラブが、目標に向かい日々練習に励んでいます。中でも水泳部が第40回関東中学校水泳競技大会に出場、第84回日本高等学校選手権水泳競技大会において1年生ながら男子200m個人メドレーで7位に入賞する生徒ができました。また、中学テニス部が2016年度第四ブロック春季大会でダブルス準優勝、ゴルフ部が全国高等学校ゴルフ選手権大会関東秋季大会に2年連続で出場など、日々の精進の成果を残しています。



## 入試結果

中学入試志願者数は豊洲移転効果で22%増加し、首都圏で話題の学校となりました。実質倍率は第1回から第3回入試の平均で4.6倍(前年度3.4倍)。特に2月1日の第1回入試は4.0倍(前年度3.0倍)で、これは首都圏男子校中学で第一位となり、偏差値も上昇しました。単なる量的増加ではなく、それに連動して質的向上が見られたことは、移転効果とともに本校の特色ある教育が幅広い層で評価された証左といえるでしょう。

高校入試志願者数は42%増加しました。今回、推薦基準の引き上げと初めての女子募集という大幅な制度変更があったにもかかわらず、男子は100人を超え、女子も27人の応募がありました。女子の入学者は19人となり、4月から女子だけのクラス編成で理工系女子教育がスタートしました。

豊洲への移転発表から4年間で着実に知名度が上昇し、入試結果にも結びついてきました。

(単位:人数)

学校	募集定員	志願者数	合格者数
中学校	160	1,422	234
高等学校	30	137 (27)	74 (21)

※( )は女子数を表す

### 校舎内に「しばうら鉄道工学ギャラリー」オープン

戦前の鉄道省が設置した東京鉄道中学の流れを汲み、創立90年を超える歴史を持つ芝浦工大附属中高では、大学の図書館へ寄贈された鉄道に関するコレクションをもとに、新豊洲校舎内に「しばうら鉄道工学ギャラリー」をオープンしました。生徒だけでなく、地域住民にもその貴重なコレクションを公開し、鉄道を通して広く工学の魅力を発信します。今後、定期的な展示コレクションの入れ替えや公開講座といったイベントも計画しており、小規模ながらも個性的なギャラリーを目指します。



## 文化系クラブの活躍

本校の文化系クラブは他校と比較しても、そのクラブ数や活動内容、参加人数、受賞歴等から、活気を呈していることがわかります。とくに、電子技術研究部はWRO Japan 全国大会へ3年連続5回目の出場を果たしました。目標は、日本一になり世界大会へ出場することです。また、鉄道研究部が全国高等学校鉄道模型コンテストにおいて、HO車両部門で最優秀賞を受賞するなど年々その活動の規模を広げ、評価を得ています。理科部、吹奏楽部の文化祭(芝生祭)における発表やパフォーマンスは、毎年多くの見学者で埋め尽くされます。地域の活動にも積極的に参加し、地域交流に尽力していることも特筆すべき活動です。

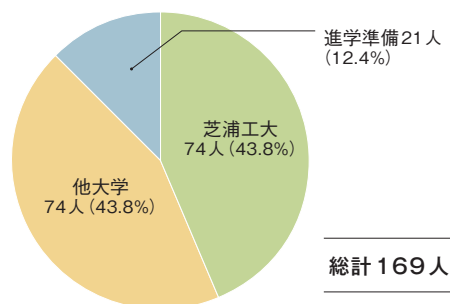


## 進路状況

2017(平成29)年3月卒業生全体における芝浦工業大学への進学率は43.8%(工学部40人、システム理工学部11人、デザイン工学部7人、建築学部16人、計74人)、他大学進学率は43.8%(74人)、そのうち11人が国立大学に合格、早慶上智理科大に27人が合格、GMARCH\*には32人が合格しています。

### 《現役生の進路状況》

(2017(平成29)年3月卒業生)



### 《他大学のうち主な進学先(抜粋)》

東京工業大学・北海道大学・群馬大学・筑波大学・千葉大学・埼玉大学・電気通信大学・東京学芸大学・横浜国立大学・早稲田大学・慶應義塾大学・上智大学・東京理科大学など

※ GMARCHとは、以下の大学の総称である。

学習院大学(G)・明治大学(M)・青山学院大学(A)・立教大学(R)・中央大学(C)・法政大学(H)

▶早慶上智大に次ぐ難易度ランクに位置する、首都圏の有力人気私立大学群を表す受験業界用語。

# 芝浦工業大学柏中学高等学校

校長あいさつ

## 建学の精神「創造性の開発と個性の発揮」のもとで、自ら学び、自ら「育つ」6年間

校長 野村 春路

本校は芝浦工業大学の伝統を踏まえ、1980(昭和55)年に新たな高校教育の創造をめざして柏市増尾の地に創設されました。1990(平成2)年から男女共学とし、1999(平成11)年に中学校を開校いたしました。2017(平成29)年春に、新入生として高校38期生284人、中学19期生199人を迎えました。さて、社会は大きく変わろうとしています。2030年頃には、人工知能(AI)が人間と同等の認知、判断能力をそなえると予測されており、それにより広範囲にわたる分野に大きな変革をもたらすと考えられます。また、IT革命が世界を瞬時に結び付け、市場経済のもとで、世界のグローバル化が加速しました。

その中で学校教育の現場では、「育てること」と「育つこと」が同時に行われているのでありますが、本校では生徒が自分で「育つ」機会を、教員が授業、学校行事、生徒会活動、クラブ活動など、様々な教育活動の中で点検・意識化し、生徒が責任を持って行動できる場面を作って行く、つまり自分で「育つ」場を増やすことを基本方針に置きました。

また、自ら「育つ」ことを促進するための新たな学習スタイルが、アクティブ・ラーニングであり、本校ではこれを具体的に進めるための指標として、「SK学習ルーブリック(評価基準表)」を作成しました。これは将来必要となる様々なジェネリック・スキルのうち、「自分に向かった能力」・「対象に向かった能力」・「他の人に向かった能力」の3つの大項目を設定し、このルーブリックを使いながら、主体的に探究して行く活動を、具体的に促進できるように工夫しています。

この方針により、人工知能をはじめとした技術革新によって大きく変わって行く社会、多様なグローバル社会に放り出されても、自分で歩いて行ける生徒を育成するのが本校の使命であります。

私たちは力を合わせ、自由闊達な芝柏の学校風土をより堅固なものとし、建学の精神である「個性」と「創造性」を実社会で思う存分活かせる生徒の育成に力を尽くして参ります。



## 教育の特色

### 総合的な教養力と受験力の向上につながる教育

本校は、進学を重視し、地域に愛される学校を目指すとともに、創意あふれる授業を通して生徒に幅広い視野と教養を身につけさせ、「創造性の開発と個性の発揮」の教育目標を担うにふさわしい健康的で人間性豊かな生徒の育成を目指しています。さらに、総合的な教養力や人格を高めるべく、授業以外のさまざまな活動をきめ細かく織り込んだ教育を実践しています。

また、新入生を対象に毎年4月に行う研修をはじめとした「自学自習」習慣を全生徒に身につけさせる取り組みを学校を挙げて推進しています。難関大受験に向けて十分な指導時間を確保しつつ、「SK学習ルーブリック(評価基準表)」も活用しながら自ら目標を立て、現状を冷静に見極めたくうえで、目標達成に向けて己の頭で具体的な対応策を考え行動に移すという、今後の自己実現に欠かせない能力の涵養にも努めています。

### 自己実現を支援するカリキュラムの骨子

#### ■ 中高6年間の総体系

中高6年間で2年ごとに分け、「ホップ」・「ステップ」・「ジャンプ」の3段階で進路実現を目指します。

「ホップ」期(中学1・2年):入試成績優秀者を「グローバル・サイエンスクラス」に集めますが、全クラス国数英を中心に基礎学力を涵養し、学習習慣と意欲を身につけ、学力の土台を根付かせます。教科外として、環境理科教育としてのグリーンスクール、日本の歴史と伝統に触れる奈良京都研修、文化祭や運動会などがあります。

「ステップ」期(中学3年・高校1年):自分の「夢」を目標という具体的な形にします。さまざまな学校活動・行事において、「サイエンス・アクティブラーニング・グローバル」の教育テーマの総仕上げを行う時期にもあてます。教科外として、グアム海外研修、自学自習研修などがあります。なお、「グローバル・サイエンスクラス」は所属メンバーの入替を経て、最難関大を目指す生徒のためのクラスとして本格運営されることになります。

「ジャンプ」期(高校2・3年):文理に分けますが、目標の通過点である大学受験を真摯に意識させます。特に高校3年次においては、本校独自のカリキュラムの下、各自の受験科目に合わせた学習に取り組みさせます。教科外として、オーストラリア海外研修などがあります。

#### ■ 高校3年間の体系

併設中学校からの連絡進学生(中入生)と高校からの入学生(高入生)は、1年入学時点での国数英の進度に差があるため、1年次は、当初より特進的要素を組み込んで運営する「グローバル・サイエンスクラス」を除き、原則的に別クラス編制となります。高入生は毎朝25分間のモーニングレッスンにおいて国数英をより多く学習することで進度差を埋めます。

2年次に文系・理系に分かれるところで、志望系に基づいたクラス編制としますが、一部科目では習熟度別授業を取り入れ、きめ細かな学習指導を行います。

3年次には、各人各様の個別コース制ともいべききめ細かな選択授業を少人数で展開し、進路目標の実現を図ります。



# 生徒の活動・活躍

## 全国中学高校Webコンテスト

中学2年から高校2年まで、「全国中学高校Webコンテスト」に参加しています

学校インターネット教育推進協会主催のこのコンテストは、3人から5人でチームを作り、「自分たちが興味を持ったテーマを他者が学ぶのに有用なウェブの特性を活かした教材」を作成し、その出来栄をプレゼンテーションを含めて競う現代的かつ知的なPBLプログラムです。これまで17回の参加で5回の全国1位を獲得するなど、多くの生徒が上位入賞を果たしています。2016(平成28)年度は、「音」に注目し、「声」という最も身近な素材を使って、その仕組みや実験の方法を解説した中学3年(現高校1年)男子4人のチームによる「音の世界 Universe of sound」が全国第2位の「総務大臣賞・プラチナ賞」に輝きました。



全国第2位となった生徒のWebサイト

## クラブ活動

多くの生徒が放課後のクラブ活動に属し、積極的に活動しています

2016(平成28)年は中学水泳部から女子200m個人メドレーで全国大会に出場、高校水泳部から男子200mおよび400m自由形で関東大会に出場。水球では、中学女子と高校女子チームがそれぞれ昨年に続き全国ジュニアオリンピックへの出場を果たしたほか、高校男子チームが千葉県高校選手権と千葉県高校総体水球で2冠を達成しました。

他には、中学陸上部から女子200mで全国大会に出場、女子60mで日本ジュニア室内陸上大会に出場。高校陸上部では5000m競歩で千葉県高校総体と千葉県高校新人大会で優勝、全国ジュニア選抜競歩大会に2年連続で出場。中学野球部では千葉県選抜チームの一員として全国大会に出場するといった実績を残しています。また高校科学部のメンバー3人による高圧下で水溶液から生成する結晶の形などをテーマにした研究が、千葉県高等学校理科部会長賞と日本学生科学賞入選1等(全国ベスト16)に入賞するなど、生徒は限られた課外活動時間の中で積極的に活動しています。



科学部受賞の様子

# 入試結果

中学校について、第1回および第2回入学試験ではグローバル・サイエンスクラス(1クラス)と通常クラス(4クラス)に分けて合格発表を行い、英語の口頭試問を課す英語入試も実施するなど、さまざまな取り組みを行いました。全体の志願者数は増加した前年と比較すると微減という結果となり、最終的には180人の募集定員に対して199人が入学しました。

高等学校については、2月の後期入学試験を廃止。その結果、全体の志願者数は300人以上減少しましたが、前期入学試験だけで比較すると前年比で微減であり、一昨年との比較では同等の志願者数となりました。また、これまでの3教科入試に加え公立同様の5教科入試も導入しましたが、全出願者の70%が5教科を選択していることから、県立最上位校を第一志望とする多くの成績優秀層受験生にとって、好評であったと総括できます。最終的に連絡進学生191人・一般入学生93人の計284人が入学することになりました。

(単位:人数)

学校	募集定員	志願者数	合格者数
中学校	180	2,047	527
高等学校	120	980	391

\*高等学校について、中学からの内部(連絡)進学者数を除く。

# 進路状況

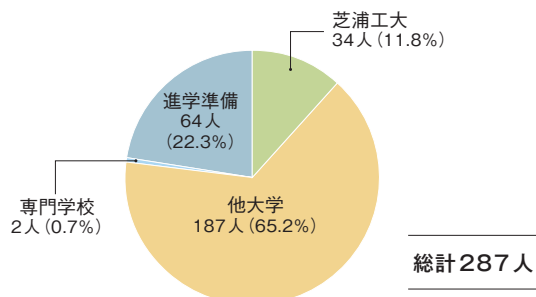
卒業生287人のうち、国公立早慶上理GMARCHいずれかの大学の合格を掴んだ生徒は130人で、早慶上智理科大の現役合格延べ数は113人(実数60人)でした。国公立大現役合格47人、GMARCH以上の実合格率52%と前年に引き続き高い水準を維持しており、特にこの年は国立医学部医学科2人、国立薬学部2人と医薬系での健闘が光る結果となりました。

## 《主な進学先(抜粋)》

東京医科歯科大学・東京工業大学・東京外国語大学・横浜国立大学・筑波大学・千葉大学・首都大学東京・早稲田大学・慶應義塾大学・上智大学・東京理科大学・明治大学・立教大学・法政大学・中央大学・学習院大学など

## 《現役生の進路状況》

(2017(平成29)年3月卒業生)







SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

# 事業報告書 2016

## I. 法人の概要

学校設立の目的等	33
教育(研究)の特色	34
設置する学校・学部・学科等	34
学校・学部・学科等の学生・生徒の状況	35
設置する学校・学部・学科の入試結果	36
役員の概要	37
評議員の概要	38
教職員の概要	39
施設等の状況	40

## II. 事業の概要

2016(平成28)年度事業報告	41
1. 改革路線の継続	41
2. 教育研究改革	42
3. 学生募集とキャリア教育	43
4. 学生支援の充実強化	44
5. 中高大連携強化と理系女子の育成	45
6. キャンパス施設整備計画	45
7. 附属・併設校強化	46
8. 地域貢献・社会貢献	46

## III. 財務の概要

2016(平成28)年度決算の概要	47
資金収支計算書	48
事業活動収支計算書	49
貸借対照表	50
学校・学部別 事業活動収支内訳表	52
経年比較 資金収支計算書	53
経年比較 事業活動収支計算書	54
経年比較 貸借対照表	55
経年比較 主な財務比率	55
その他	
参考 財産目録の概要	59

# I. 法人の概要

## 学校設立の目的等

### 芝浦工業大学

芝浦工業大学は、教育基本法および学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く理工学の研究を行い、世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工学教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的としています。

### 芝浦工業大学大学院

芝浦工業大学大学院は、理工学に関する理論および応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的としています。

### 芝浦工業大学専門職大学院

芝浦工業大学専門職大学院は、技術と経営について研究し、実践によってその深奥を究め、職業等に必要の高度の専門知識および実践能力を養い、日本の技術の発展と振興を図り、文化の進展に寄与することを目的としています。

### 芝浦工業大学附属高等学校

芝浦工業大学附属高等学校は、教育基本法および学校教育法の精神に則り、中学校を卒業した者に中学校教育の基礎の上に心身の発達に応じて高等普通教育を施すことを目的としています。

### 芝浦工業大学柏高等学校

芝浦工業大学柏高等学校は、教育基本法および学校教育法の趣旨に従い、中学校教育の基礎の上に中学校を卒業した者に対し、高等普通教育を施すことを目的としています。

### 芝浦工業大学附属中学校

芝浦工業大学附属中学校は、教育基本法および学校教育法の精神に則り、小学校教育の基礎の上に、心身の発達に応じて中等普通教育を施すことを目的としています。

### 芝浦工業大学柏中学校

芝浦工業大学柏中学校は、教育基本法および学校教育法の趣旨に従い、小学校教育の基礎の上に、心身の発達に応じて中等普通教育を施すことを目的としています。

## 教育(研究)の特色

芝浦工業大学は、「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神として、1927年に有元史郎によって、東京高等工商学校として創立されました。以来、この建学の精神のもと、実践型技術者として社会に貢献できる多くの卒業生を輩出し、社会の発展に貢献してきました。

現在、本学は、工学だけではなく、理学やデザインの分野にも教育研究のフィールドを広げ、グローバル化を意識し「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工学人材の育成」を人材育成目標として教育研究を進めています。

今後も、実学重視という建学の精神を尊重しつつ、世界水準の理工学教育の実践と学生の学修成果の質保証を約束し、世界レベルの研究拠点形成と、地域との連携による学生参加型研究の実践、

また、いろいろな国籍や男女が共同で参画できる多様な環境の中で教育研究を進めることにより、複雑多様化するグローバル社会において、世界の維持発展とイノベーション創出に貢献できる学生の育成を目指します。

また、芝浦工業大学附属中学高等学校では、人格形成に大切な時期を男子の特徴と発達段階を見極め、6年間を3段階に分けて教育指導を行っています。前期は「英語・数学の基礎学力養成」、中期は「徹底した学習・進路指導」、後期は「進路目標に合ったコース選択」をそれぞれ特色としています。

芝浦工業大学柏中学高等学校では、「創造性の開発と個性の発揮」を建学の精神とし、「おおらかな進学校」をモットーに指導に取り組んでいます。

## 設置する学校・学部・学科等

(2016(平成28)年度)

設置する学校	開校年	学部・学科等	摘要
芝浦工業大学	1949(昭和24)年	工学部	(豊洲キャンパス) 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
	1991(平成3)年	システム工学部 <sup>※1</sup>	(大宮キャンパス) 〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307
	2009(平成21)年	デザイン工学部	(芝浦キャンパス) 〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14
芝浦工業大学大学院	1963(昭和38)年	工学研究科修士課程 <sup>※2</sup>	(豊洲キャンパス) 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
	1995(平成7)年	工学研究科博士(後期)課程 <sup>※2</sup>	
	2003(平成15)年	工学マネジメント研究科	
芝浦工業大学附属高等学校	1949(昭和24)年	全日制(普通科)	(芝浦工業大学附属中学高等学校 板橋校地) 〒174-8524 東京都板橋区坂下2-2-1
芝浦工業大学柏高等学校	1980(昭和55)年	全日制(普通科)	(芝浦工業大学柏中学高等学校 柏校地) 〒277-0033 千葉県柏市増尾700
芝浦工業大学附属中学校	1982(昭和57)年		(芝浦工業大学附属中学高等学校 板橋校地) 〒174-8524 東京都板橋区坂下2-2-1
芝浦工業大学柏中学校	1999(平成11)年		(芝浦工業大学柏中学高等学校 柏校地) 〒277-0033 千葉県柏市増尾700

※1 システム工学部は2009(平成21)年4月にシステム理工学部に変更しました。

※2 工学研究科は2011(平成23)年4月に理工学研究科に変更しました。

## 設置する学校・学部・学科等の学生・生徒の状況

(学生・生徒・入学者数は2016(平成28)年5月1日現在)

## 学部

(単位：人)

芝浦工業大学(学部)	学 科	入学定員	収容定員	学生数	入学者数
工学部	機械工学科	100	400	450	121
	機械機能工学科	100	400	453	128
	材料工学科	90	360	403	93
	応用化学科	90	360	422	96
	電気工学科	90	360	416	95
	通信工学科	90	360	422	95
	電子工学科	90	360	392	93
	土木工学科	90	360	406	98
	建築学科	100	400	454	114
	建築工学科	100	400	476	119
	情報工学科	100	400	457	106
システム理工学部	電子情報システム学科	100	400	463	108
	機械制御システム学科	80	320	362	90
	環境システム学科	80	320	378	97
	生命科学科	100	400	457	111
	数理科学科	70	280	315	78
デザイン工学部	デザイン工学科	140	560	660	172
計		1,610	6,440	7,386	1,814

## 大学院研究科

(単位：人)

芝浦工業大学(大学院研究科)	専 攻	入学定員	収容定員	学生数	入学者数
理工学研究科修士課程	電気電子情報工学専攻	100	200	203	104
	材料工学専攻	30	60	89	43
	応用化学専攻	20	40	44	19
	機械工学専攻	65	130	196	102
	建設工学専攻	90	180	216	120
	システム理工学専攻	50	100	156	73
理工学研究科博士(後期)課程	地域環境システム専攻	10	30	20	7
	機能制御システム専攻	8	24	41	16
工学マネジメント研究科専門職学位課程	工学マネジメント専攻	28	56	32	18
計		401	820	997	502

## 高等学校・中学校

(単位：人)

併設高等学校・中学校	入学定員	収容定員	生徒数	入学者数
芝浦工業大学附属高等学校	172	516	551	199
芝浦工業大学柏高等学校	296	888	858	285
芝浦工業大学附属中学校	160	480	514	179
芝浦工業大学柏中学校	180	540	569	194
計	808	2,424	2,492	857

## 設置する学校・学部・学科の入試結果 - 2017(平成29)年度入試 -

### 学部

(単位：人)

芝浦工業大学(学部)	学 科	募集人員	志願者数	合格者数
工学部	機械工学科	97	3,745	855
	機械機能工学科	97	2,229	767
	材料工学科	92	1,595	706
	応用化学科	92	2,304	923
	電気工学科	92	1,890	613
	通信工学科	92	1,129	479
	電子工学科	92	1,577	635
	土木工学科(社会基盤コース)	70	1,171	387
	土木工学科(社会システムデザインコース)	20	429	157
	情報工学科	97	3,487	741
システム理工学部	電子情報システム学科	93	2,256	607
	機械制御システム学科	71	1,217	471
	環境システム学科	76	1,690	438
	生命科学科(生命科学コース)	44	1,178	436
	生命科学科(生命医工学コース)	43	904	360
	数理科学科	58	1,070	437
デザイン工学部	デザイン工学科 ロボティクス・情報デザイン系	72	1,158	365
	デザイン工学科 生産・プロダクトデザイン系	72	1,612	470
建築学部	建築学科 APコース：先進的プロジェクトデザインコース	20	795	127
	建築学科 SAコース：空間・建築デザインコース	81	4,149	439
	建築学科 UAコース：都市・建築デザインコース	81	3,013	478
計		1,552	38,598	10,891

※上記数字は一般入試に限ります。

### 大学院研究科

(単位：人)

芝浦工業大学(大学院研究科)	専 攻	募集人員	志願者数	合格者数
理工学研究科修士課程	電気電子情報工学専攻	100	169	149
	材料工学専攻	30	50	47
	応用化学専攻	20	55	43
	機械工学専攻	65	118	105
	建設工学専攻	90	140	120
	システム理工学専攻	50	89	80
	国際理工学専攻	10	10	10
理工学研究科博士(後期)課程	地域環境システム専攻	10	5	5
	機能制御システム専攻	8	10	10
工学マネジメント研究科専門職学位課程	工学マネジメント専攻	28	12	11
計		411	658	580

### 高等学校・中学校

(単位：人)

併設高等学校・中学校	募集人員	志願者数	合格者数
芝浦工業大学附属高等学校	50	137	74
芝浦工業大学柏高等学校	120	980	391
芝浦工業大学附属中学校	160	1,422	234
芝浦工業大学柏中学校	180	2,047	527
計	510	4,586	1,226

## 役員概要

(2017(平成29)年3月31日現在)

定員数 理事12人 監事3人

区分	氏名	常勤非常勤の別	摘要
理事長	五十嵐 久也	常勤	平成15年6月理事に就任 平成18年6月理事に重任 平成21年6月理事に重任 平成22年6月 学校法人芝浦工業大学理事長に就任 平成24年6月 学校法人芝浦工業大学理事長に重任 平成27年6月 学校法人芝浦工業大学理事長に重任(現在に至る)
常務理事	村上 雅人	常勤	平成24年4月理事に就任(職務上理事) 平成27年4月理事に重任(職務上理事)(現在に至る)
専務理事	早乙女 徹	常勤	平成23年5月理事に就任(職務上理事) 平成27年7月理事に重任(理事長補佐)(現在に至る)
常務理事	横田 壽	常勤	平成24年6月理事に就任(財務担当) 平成27年6月理事に重任(財務・学術情報担当)(現在に至る)
常務理事	村上 公哉	常勤	平成21年6月理事に就任(施設担当) 平成24年7月理事に重任(総務担当) 平成27年6月理事に重任(総務・ガバナンス改革担当)(現在に至る)
常務理事	野口 一也	常勤	平成27年6月理事に就任(職務上理事)(現在に至る)
理事	永山 勝久	常勤	平成21年9月理事に就任(入試・広報・国際担当) 平成24年6月理事に重任(施設担当) 平成27年6月理事に重任(施設担当)(現在に至る)
理事	三浦 昌生	常勤	平成24年6月理事に就任(就職担当) 平成27年6月理事に重任(入試・就職担当)(現在に至る)
理事	大坪 隆明	常勤	平成27年6月理事に就任(中学校・高等学校担当)(現在に至る)
理事	鈴見 健夫	常勤	平成21年6月理事に就任 平成24年6月理事に重任 平成27年6月理事に重任(事業担当)(現在に至る) (株式会社エスアイテック 代表取締役) (芝浦工業大学校友会 会長)
理事	村上 愛三	非常勤	平成24年6月理事に就任 平成27年6月理事に重任(現在に至る) (弁護士 東京弁護士会)
理事	岩瀬 吉廣	非常勤	平成24年6月理事に就任 平成27年6月理事に重任(現在に至る) (阪神電気鉄道株式会社 顧問)
監事	秋山 進	常勤	平成27年6月監事に就任 (プリンシプル・コンサルティング・グループ株式会社 代表取締役)
監事	大室 康一	常勤	平成27年10月監事に就任(現在に至る) (株式会社大室産業 代表取締役社長)
監事	秋山 豪	非常勤	平成27年6月監事に就任(現在に至る) (鹿島建設株式会社 顧問)

## 評議員の概要

(2017(平成29)年3月31日現在)

評議員定数 45人

区分	氏名	所属・勤務先
評議員	村上 雅人	芝浦工業大学 学長
評議員	山田 純	芝浦工業大学 工学部長
評議員	渡部 英二	芝浦工業大学 システム理工学部長
評議員	古屋 繁	芝浦工業大学 デザイン工学部長
評議員	大坪 隆明	芝浦工業大学附属中学高等学校 校長
評議員	野村 春路	芝浦工業大学柏中学高等学校 校長
評議員	横田 壽	芝浦工業大学 数学科目 教授
評議員	永山 勝久	芝浦工業大学 材料工学科 教授
評議員	守田 優	芝浦工業大学 副学長、土木工学科 教授
評議員	高崎 明人	芝浦工業大学 理工学研究科長、機械機能工学科 教授
評議員	浜野 学	芝浦工業大学 体育・健康科目 教授
評議員	西川 宏之	芝浦工業大学 電気工学科 教授
評議員	矢作 裕司	芝浦工業大学 機械工学科 教授
評議員	戸澤 幸一	芝浦工業大学 デザイン工学科 教授
評議員	米田 隆志	芝浦工業大学 副学長、生命科学科 教授
評議員	中井 豊	芝浦工業大学 電子情報システム学科 教授
評議員	井戸川 知之	芝浦工業大学 数理科学科 教授
評議員	佐藤 元哉	芝浦工業大学附属中学高等学校 高等学校 教頭
評議員	佐藤 工人造	芝浦工業大学附属中学高等学校 高等学校 教諭
評議員	大村 俊樹	芝浦工業大学柏中学高等学校 高等学校 教諭
評議員	中村 圭	芝浦工業大学柏中学高等学校 高等学校 教諭
評議員	丁 龍鎮	学校法人芝浦工業大学 大宮学事部長
評議員	満重 信之	学校法人芝浦工業大学 総務部長
評議員	須之部 隆	学校法人芝浦工業大学 財務部長
評議員	相沢 真一	芝浦工業大学附属中学高等学校 事務長補佐
評議員	早乙女 徹	学校法人芝浦工業大学 専務理事
評議員	山下 修	学校法人芝浦工業大学 事務局次長
評議員	鈴見 健夫	株式会社エスアイテック 代表取締役・芝浦工業大学 校友会 会長
評議員	土屋 賢一	元 株式会社竹中工務店 専門役
評議員	大丸 征史	芝浦工業大学 校友会 東京総支部長
評議員	谷川 潮	いすゞ自動車首都圏株式会社 理事
評議員	橋本 雅夫	鹿島建設株式会社 非常勤顧問
評議員	川越 進	特定非営利活動法人 山形県サッカー協会 副会長
評議員	平井 良樹	株式会社 ひら井 代表取締役社長
評議員	福井 幸博	一般財団法人 北陸産業活性化センター 北陸ライフサイエンスクラスター推進室 北陸ライフサイエンスクラスター推進室長
評議員	足立 寛	立教大学 総長室 渉外課 担当課長
評議員	岩瀬 吉廣	阪神電気鉄道株式会社 顧問
評議員	大町 達夫	東京工業大学 名誉教授
評議員	高橋 哲夫	北区環境大学 名誉学長
評議員	野口 博	静岡理工科大学 学長
評議員	向井 眞一	株式会社内田洋行 顧問
評議員	上村 多恵子	京南倉庫株式会社 代表取締役社長
評議員	木村 増夫	学校法人上智学院 理事長補佐
評議員	朱田 光洋	朱田税務会計事務所 所長
評議員	山崎 治平	株式会社URコミュニティ 代表取締役社長

## 教職員の概要

(2016(平成28)年5月1日現在)

## 1. 大学教員数

(単位：人)

所属	資格	専任					非常勤	計
		教授	准教授	講師	助教・助手	計		
	学長	1	0	0	0	1	0	1
	副学長	2	0	0	0	2	0	2
工学部	機械工学科	8	3	1	0	12	9	27
	機械機能工学科	7	6	0	0	13	9	23
	材料工学科	8	3	0	1	12	5	26
	応用化学科	10	2	0	0	12	6	18
	電気工学科	10	1	1	0	12	14	29
	通信工学科	8	4	0	1	13	4	18
	電子工学科	8	3	0	1	12	9	23
	土木工学科	9	2	0	0	11	12	29
	建築学科	10	2	0	0	12	13	41
	建築工学科	11	2	0	0	13	18	51
	情報工学科	8	3	0	1	12	3	18
	共通学群	19	20	1	1	41	141	189
	システム 理工学部	電子情報システム学科	14	2	0	0	16	11
機械制御システム学科		9	5	0	0	14	8	24
環境システム学科		12	1	0	0	13	32	48
生命科学科		7	5	0	2	14	13	37
数理科学科		9	2	0	2	13	11	21
デザイン工学部	デザイン工学科	16	6	0	2	24	41	89
大学院	理工学研究科	5	1	0	0	6	17	31
	工学マネジメント研究科	7	3	0	0	10	6	24
その他	教育イノベーション推進センター	6	8	19	0	33	0	26
	学長室シニア教員	0	0	0	0	0	0	0
	SIT総研、先端工学研究機構	1	0	0	0	1	0	2
	マレーシア高等教育プログラム	4	1	0	0	5	0	6
合計		208	85	21	10	324	382	836

※専任者には、特別任用教員、シニア教員(いずれも有期雇用者)を含んでいます。

※学長は工学部材料工学科・教授、副学長はシステム理工学部生命科学科・教授、工学部土木工学科・教授です。当該学科からは除外しています。

## 2. 高等学校・中学校

(単位：人)

所属	資格	教諭	非常勤	計
高等学校	芝浦工業大学附属高等学校	31	12	43
	芝浦工業大学柏高等学校	43	25	68
中学校	芝浦工業大学附属中学校	30	7	37
	芝浦工業大学柏中学校	32	4	36
合計		136	48	184

※特任を含む

## 3. 職員数

(単位：人)

所属	資格	専任	非専任			計	派遣職員
			ポスドク	TA・RA・LF	臨時職員		
豊洲校舎		105	7	246	45	424	44
大宮校舎		34	3	78	48	167	15
芝浦校舎		39	1	13	11	37	12
板橋校舎		5	0	0	9	15	7
柏校舎		4	0	0	5	6	2
合計		190	11	337	118	649	80

※専任者には、特定職員、シニア職員(いずれも有期雇用者)を含んでいます。

※ポスドク・TA・RA・LFは、大学院の各研究科に所属しています。



## 施設等の状況

(2017(平成29)年3月31日現在)

### 1. 現有施設の所在地等の説明

所在地	施設等	面積等 (㎡)	取得価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	摘要
東京都港区芝浦3丁目9番14号	校地	2,624.00	395,251	395,251	デザイン工学部3・4年、大学院理工学研究科、工学マネジメント研究科および法人部門が使用している。
	校舎1棟	12,491.62	5,073,207	3,716,323	
東京都江東区豊洲3丁目7番5	校地	30,000.26	8,821,152	8,821,152	建築学部1年、工学部3・4年、大学院理工学研究科が使用している。
	校舎2棟他	61,890.42	24,008,469	16,142,499	
埼玉県さいたま市見沼区 大字深作307番地	校地	170,233.94	1,825,359	1,825,359	工学部1・2年、デザイン工学部1・2年、システム理工学部、大学院理工学研究科が使用している。
	校舎13棟他	64,171.68	19,901,160	11,317,655	
埼玉県さいたま市見沼区 東大宮2丁目4番3号	寄宿舎(借室)	-	6,337	5,687	男子学生寮として建物一括借用(敷地1,636.00㎡、建物2,388.41㎡)。本学資産は追加した建物付帯設備部分。
埼玉県さいたま市西区 大字二ツ宮字岸ノ町113番地1	運動場管理施設用地 (区分所有)	124.50	8,684	8,684	大学、併設校が使用している。
	管理事務所 (区分所有)	59.61	10,907	5,887	
東京都板橋区坂下2丁目2番1号	校地	10,016.05	1,613,356	1,613,356	2017年4月より豊洲6丁目新校舎へ移転。
	校舎5棟他	10,841.23	2,612,917	968,642	
東京都江東区豊洲6丁目2番7号	校地	17,026.34	6,228,249	6,228,249	附属中学高等学校が使用する。
	校舎3棟	18,087.80	6,369,307	6,269,859	
千葉県柏市増尾700番地	校地	44,842.02	1,227,790	1,227,790	柏中学高等学校が使用している。
	校舎8棟他	15,685.63	3,797,943	1,788,385	
福島県南会津郡 会津町高杖原740番	研修施設用地	7,404.00	73,639	73,639	
	研修施設	3,992.20	1,171,440	578,854	
神奈川県三浦郡 葉山町堀内字五ツ合162番1	研修施設用地	354.35	94,853	94,853	
	研修施設	506.25	215,328	73,570	
東京都青海2丁目7番4号	研究施設(借室)	-	302	257	研究施設として1室(88.58㎡)借用。本学資産は追加した電気設備部分。
Kampus Institut Teknologi Bandung Jatinangor JL.Winaya Mukti, Jatinangor, Kabupaten Sumedang, Java Barat, Indonesia	研究施設	85.86	14,034	11,824	バンドン工科大学との共同研究用モデルハウスとして建設した。

### 2. 2016(平成28)年度の主な施設の取得又は処分及び進捗状況

- 1) 豊洲キャンパス：製図室棟/アーキテクチャープラザを新築した。グローバルラーニング commons の整備開設をした。
- 2) 大宮キャンパス：正門および通用門を新築した。
- 3) 芝浦キャンパス：外部看板の整備新設をした。
- 4) 柏中学高等学校：家庭科棟の外壁および高校棟の内壁塗装を実施した。
- 5) 附属中学高等学校：新校舎建設工事が完了した。
- 6) 全キャンパスで防犯強化のため、カメラ・カードリーダーの増設を実施した。

### 3. その他保有資産(図書、教具・校具及び備品)の説明

#### 1) 図書

区分	冊数			価額(円)
	内国書(冊)	外国書(冊)	計(冊)	
図書	273,344	30,381	303,725	1,200,009,580
学術雑誌	18,540	18,427	36,967	103,538,236
計	291,884	48,808	340,692	1,303,547,816

#### 2) 教具・校具及び備品

名称又は種類	数量(点)	価額(円)
教具・校具	88,060	4,614,932,092
備品	6,510	456,605,978
計	94,570	5,071,538,070

## Ⅱ. 事業の概要

---

### 2016(平成28)年度事業報告

---

#### 1. 改革路線の継続

---

##### ■ 評議員の選任方法について

選任評議員の内、学内評議員(教職員評議員)及び学識経験者評議員を対象として、その選任方法について、選挙による選任を改め、評議員推薦委員会の推薦を経て理事会が選任する方法としました(寄附行為の改定、関連規程の廃止及び制定)。

##### ■ 副学長、学部長、研究科長の選考について

本法人のガバナンス改革の一環として、芝浦工業大学の副学長、学部長、あるいは同大学院の研究科長の選考について選挙等による選考を改め、学長が指名・推薦し理事会が承認する方法としました(学則及び関連規程の改廃)。

##### ■ 職員人事制度の改革

改革のスピードアップには教職員の意識改革促進が不可欠であり、特に職員の人事考課方法の改善と考課結果を給与に適切に反映する仕組みを構築する必要があります。理事会は関連規程を改廃し、職員の2016(平成28)年度の活動や業績について新たな方法による人事考課を試行しました。さらに、2017(平成29)年4月1日より、給与制度の変更を含む新たな職員人事制度を全面的に適用・開始しています。

##### ■ キャンパスの防犯体制の強化・拡充

各キャンパスにおいて防犯体制における問題点を抽出し、優先実施事項をとりまとめ、パトロールの強化、防犯カメラの拡充等を実施しました。又、警察OB2人を安全警備担当者として採用配置しました。

##### ■ 福利厚生施設の現状整理と今後のあり方の検討

葉山、高杖両セミナーハウスの利用状況(時期や利用者)の偏り、多額の運営経費負担や過去からの収支状況をふまえ、両セミナーハウスの休館を決定しました。

## 2. 教育研究改革

### ■ Centennial SIT Action

芝浦工業大学は、創立100周年を迎える2027年にアジア工科大学トップ10に入るという目標を設定。世界に名だたるグローバル理工系大学へと成長するために「理工学教育日本一」「知と地の創造拠点」「グローバル理工学教育モデル校」「ダイバーシティ推進先進校」「教職協働トップランナー」の5つの取り組みを推進していくことを掲げ、これを「Centennial SIT Action」として宣言しました。

### ■ スーパーグローバル大学創成支援事業の推進

目標進捗状況を常に確認しつつ、その推進を図るため、SGU教学会議を定期的に開催し、教職協働で事業を進めています。3年度目となる2016(平成28)年度は、アクティブ・ラーニング教育の一環として、海外協定校と展開してきたグローバルPBLを中心とする留学プログラムのさらなる拡充を図った結果、日本人学生の海外留学経験者数は873人となりました。一方、受け入れ留学生については、アフリカの“ABEイニシアティブ”等の政府間プロジェクトによる留学生を積極的に受け入れ770人となりました。日本人学生の英語力向上に関する指標であるCEFRのB1レベル以上(TOEICスコア550点以上に相当)の獲得者数は、2016(平成28)年度末までに1,700人を超える水準となりました。又、2015(平成27)年度から引き続き学生のグローバル意識を高揚させるためのイベント「グローバルデー」の開催や、TOEIC高得点者への表彰の実施、スコアアップレッスンなどを実施しました。加えて、学生同士の海外交流やダイバーシティ拡大をコンセプトとした施設「グローバルラーニングcommons」を大宮キャンパスで運用開始、続いて豊洲キャンパスにも整備し、2017(平成29)年度から本格利用を始めています。

こうした取り組みの結果、芝浦工業大学は、Times Higher Education発表の世界大学ランキングにおいて初めて+800位にランクインしました。世界の大学の約2%以内にあたる大学として評価されることとなりました。

### ■ 大学教育再生加速プログラム(AP)の推進

2016(平成28)年度は、学部4年間の体系的・組織的アクティブラーニング改革、学修成果の可視化と学生の学修時間のPDCAサイクルによる保証、教育改革の推進体制の強化を掲げ、コース・ナンバリングの全学での試行や、質保証のための達成度評価基準と評価方法の策定などを教職協働で実施しました。

### ■ 学部・学科・専攻の開設と再編等

2017(平成29)年に開設する建築学部、国際理工学専攻、システム理工学部国際コース、及び再編するデザイン工学部の新体制準備を進め、同時にその広報活動に努めました。又、既設各学部の定員増申請が認可され、2017(平成29)年度より学部全体の入学定員が1,860人(+250人)となりました。

### ■ 研究活動の強化と外部資金獲得

創立100周年に向けた研究力強化プラン「SIT研究ビジョン」を掲げ、「産学共同研究の実施」「研究拠点環境の整備」「研究成果拡大」の3つを重点方策として設定しました。そしてこれらを統合的に実施し研究力の強化を図るための体制として、技術の社会実装と人材育成を同時に推進する「芝浦型ERC(Engineering Research Center)」構想を構築しました。

又、「文部科学省平成28年度私立大学等改革総合支援事業」において、「教育の質的転換」「地域発展」「産業界・他大学との連携」「グローバル化」の4テーマすべてに採択されました。4年連続して全タイプ選定となり、これは全国から申請のあった私立大学716校の中でも2校のみという成果を得ました。

### ■ 工大サミットの設立

日本の工科大学の国際化を推進し工学教育の質保証を図るための具体策の一つとして、愛知工業大学、大阪工業大学、広島工業大学、福岡工業大学へ「工大サミット」の構想を提案し、これを設立しました。2017(平成29)年6月に第1回目のキックオフイベントを開催します。

### 3. 学生募集とキャリア教育

#### ■ 学生募集

2016(平成28)年度は、入学試験におけるダイバーシティの強化・拡充を意図し、女子学生及び外国人留学生の増加のための施策を展開しました。指定校推薦入試における女子高枠の拡大、オープンキャンパスにおける女子のためのイベント拡充、首都圏の日本語学校の精力的訪問などにより、女子及び外国人留学生とも過去最高の入学比率となりました。入学試験においては、文部科学省の「多面的・総合的選抜方法」の実施要請を受け、筆記試験(数学・理科)と外部英語資格・検定試験を合わせた新方式の入学試験を実施。全学部で約1,000人の志願者を集めました。また新設建築学部においては、APコース(先進的プロジェクトデザインコース)において、実技と面接を組み合わせた「プロジェクト入試(公募制推薦型)」を実施し、個性豊かな受験生が集まりました。一般入学試験全体としては、新設建築学部の人気もあり、学部合計で38,598人の志願者を集め(前年比115%、+5,001人)、史上最高数であった2015(平成27)年度の38,972人に次ぐ史上2番目の志願者数となりました。他方、入学試験の組織改革の一環として、これまでの入試センターをアドミッションセンターに改称し、入学者選抜において成績評価に参画する機能を付加するとともに、入学試験業務に精通した職員又は学識経験者をアドミッションセンター専門員として同センターの構成員とすることとしました。

#### ■ キャリア教育

就職希望者の就職率100%を目指し、学生の就職に対する意識向上、学内他部署等との連携、学生のキャリア形成支援体制の充実を図った。毎年恒例の「学内合同企業説明会」のほか、「OB企業役員による面接対策講座」など、芝浦工業大学校友会との連携も積極的に実施しました。さらに新たな取り組みとして、Web企業説明会や四大学合同企業説明会を実施。低学年向けにも工場見学会などを実施して学生の就職に対する意識醸成を図りました。又、グローバル化の一環として、留学生向けのインターンシップ講座なども実施。その結果、学部98.3%、大学院97.0%で、大学全体では97.9%という、過去最高の就職内定率を達成しました。

#### 2016年度 就職先ランキング

1	東日本旅客鉄道(株)	31人
2	東海旅客鉄道(株)	24人
3	本田技研工業(株)	22人
4	積水ハウス(株)	12人
5	(株)竹中工務店	12人
6	日本発条(株)	12人
7	(株)SUBARU	11人
8	東京都特別区	10人
9	大和ハウス(株)	9人
10	東京都庁	9人



校友会との連携による就職支援講座

## 4. 学生支援の充実強化

### ■ 学生生活支援

学生・教職員健康相談室では、大宮キャンパスに続き豊洲キャンパスに「ピア・スペース」を設置しました。休憩場所としても利用でき、専従カウンセラーやインターカーと気軽に話ができるスペースを整備しました。

### ■ 課外活動支援

課外活動支援として、2016(平成28)年度に優秀な成績・功績を残した学生団体・個人に「課外活動奨励金」を以下の通り贈ることとしました。

#### 団体の部

##### 軟式野球部

首都学生軟式野球春季リーグ3位、首都学生軟式野球秋季リーグ準優勝、第37回東日本学生軟式野球選抜大会出場、第9回ディバインパシフィックカップ全日本軟式野球選手権大会準優勝

##### アメリカンフットボール部

関東学生アメリカンフットボールリーグ3部優勝、2部昇格

##### サッカー部

埼玉県大学サッカーリーグ2部2位、1部昇格、埼玉県大学サッカーリーグフェアプレー賞

#### 個人の部

##### 大橋 輝成さん(軟式野球部)

首都学生軟式野球春季リーグ最多勝利投手、敢闘賞、秋季リーグ最多奪三振、ベストナイン、優秀選手賞

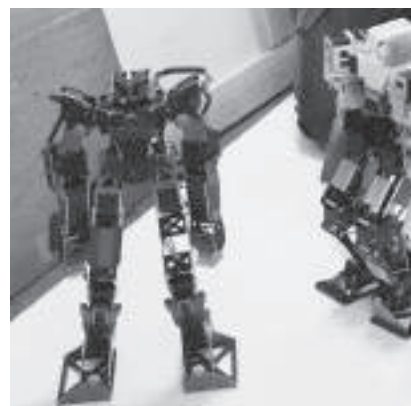
##### 大田原 陸さん(S.R.D.C)

KHK杯ロボット大会準優勝

##### 矢澤 健太さん(陸上競技部)

##### 増田 勇太さん(陸上競技部)

箱根駅伝予選会の5年連続出場に大きく貢献



## 5. 中高大連携強化と理系女子の育成

### ■ 中高大連携強化

大学と附属・併設学校との連携については、2012(平成24)年度より大学教員、附属・併設学校教員及び大学事務職員らで構成する「中高大連携推進検討委員会」を組織し、継続的に既存プログラムの見直しや新規プログラムの実施計画策定等に取り組んでいます。2016(平成28)年度は、大学と附属・併設する各学校がグローバル人材育成とスーパーグローバル大学支援を主眼として、大学院の英語による授業見学、国際部職員によるグローバルの意味についての講演会、及び大学推薦内定者に対し外部講師によるTOEIC指導などを実施。又2017(平成29)年度よりシステム理工学部を設置される国際コースについて、推薦入学希望者への説明や啓蒙活動に取り組みました。

### ■ 理系女子の育成

首都圏の女子校を中心とした学校訪問を拡大し展開しているほか、女性技術者のロールモデルを紹介する冊子「VISION BOOK」を制作し、高校生対象のイベント等で配布しました。又、3月には、港区立男女平等参画センターと共催で、近隣の女子中学生にロボットの組み立てとプログラミングを指導する講座を開講し、芝浦工業大学の男女共同参画推進室が実施する「工学女子を育てよう！プロジェクト」において芝浦工業大学女子学生が中学生への講師役を務めました。

## 6. キャンパス施設整備計画

### ■ 建築学部製図室建設

2017(平成29)年4月建築学部開設に合わせ、建築学部製図室の建設を行い、2017(平成29)年2月に竣工しました。



### ■ 新豊洲中高建設完成

芝浦工業大学附属中学高等学校の2017(平成29)年度の新豊洲地区への移転開校に合わせ、新校舎建設を行い、2016(平成28)年8月に竣工しました。



## ■ 大宮総合グラウンド完成

大宮キャンパス開設50周年記念事業の一環として人工芝の総合グラウンド整備を実施し、2016(平成28)年7月に工事着工、2017(平成29)年3月に竣工しました。



## ■ 大宮キャンパス正門建設

大宮キャンパス50周年を記念し、大宮キャンパス入り口に正門を設置。芝浦工業大学の前身である東京高等工商学校の正門を模してデザインしたもので、大宮キャンパスの新たなシンボルとなりました。



## ■ 豊洲キャンパス第二期校舎計画の推進

2016(平成28)年7月に開催した評議員会において、豊洲キャンパス第二期校舎に係る資産取得が承認され、建設準備を開始しました。

## 7. 附属・併設校強化

### ■ 芝浦工業大学附属中学高等学校

2016(平成28)年8月に竣工した新豊洲校舎について、2017(平成29)年4月の移転開校に向けた各種届け出や、校内ルールづくり、移転作業を進めました。又、塾訪問や保護者向け学校説明会、Webサイト、交通広告などを用いて移転のPRを行ったほか、英語教育や留学促進などにも取り組みました。

### ■ 芝浦工業大学柏中学高等学校

2015(平成27)年より高校に設置したグローバル・サイエンス(GS)クラスを、新たに中学にも設置。授業改革としては、アクティブラーニングの要素を取り入れる取り組みを進めました。又、英語教育も積極的に進め、校内の案内掲示板を英語との併記にするなど日常的に意識の高揚を図り、あわせて留学プログラムも拡充。そして女子生徒の新たな理工系進路選択支援を展開し、芝浦工業大学に進学した卒業生による講演会や冊子の配布などを実施しました。

## 8. 地域貢献・社会貢献

### ■ COC事業を軸とした地域貢献

2013(平成25)年度に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」が4年目を迎え、20プロジェクトが活動を展開。大学のキャンパスがある地域を中心に、機械、建築、情報その他さまざまな工学分野のアプローチから地域課題の解決に取り組みました。2017(平成29)年3月にはCOC学生成果報告会を開催し、プロジェクトに関わった学生によるプレゼンテーションが行われ、300人を超える参加者がありました。又、学生の自主的な活動として、伊豆の空き家改修や、墨田区での防災教育、石垣島のサンゴ保全などの社会貢献活動を展開しています。

### ■ 生涯学習講座

大学の「知」を社会に還元するとともに、子どもたちの理科に対する興味喚起を促進するため生涯学習公開講座を実施しています。2016(平成28)年度は、一般向け公開講座(オープンテクノカレッジ)には1,211人、子ども向けの公開講座(オープンテクノキッズ)には335人、ロボットセミナーには2,592人の参加がありました。

公開講座の講師には芝浦工業大学の教員の他、卒業生、学生団体などの協力を得て、大学の情報発信という面で充実した講座を展開しました。魅力ある講座づくり、情報発信に取り組んだ結果、全体で過去最高の6,000人以上の講座への応募がありました。

## Ⅲ. 財務の概要

### 2016(平成28)年度 決算の概要

#### 1. 学校法人会計の特徴と企業会計との相違

学校法人は、教育・研究を通じて有為な人材を育成、輩出し、教育・研究活動で得られた成果を社会に還元することを目的としています。収入の大部分を学費と国及び地方自治体からの補助金が占めており、収入がある程度予め固定されているため、支出の増加に際し、短期間で支出に見合う収入の増加を図ることが難しく、運営には予算制度に基づく長期的な財政計画が必要です。学校会計は、このような特性を踏まえて、教育・研究活動を継続的に行うための校地、校舎等基本財産の取得状況や長期にわたる収支の均衡の状況を確認できるよう構成されています。

一方で、企業は利潤の追求を主な目的としており、企業会計は収益と費用から当該事業の状況を明らかにし、経営成績を判断するべく構成されています。

#### 2. 学校法人会計基準

国または地方公共団体から経常費補助金の交付を受けている学校法人は、文部科学大臣の定める会計処理基準(学校法人会計基準)に従い計算書類を作成することが義務付けられており(私立学校振興助成法第14条)、本学もこれに従い計算書類を作成しています。

#### 3. 2016(平成28)年度 決算の概要

2016(平成28)年度の資金収支の規模は314億円となりました。収入面では、2017年度入試において入学志願者数が大学で前年度比増加したことで入学検定料収入が予算比8千万円増となったほか、受託研究契約件数の増加に伴う受託事業収入の増額により、付随事業・収益事業収入が予算比6千万円増の7億2千万円となりました。また退職者数の増加に伴う私学退職金団体交付金収入の増額などにより、雑収入が予算比2億2千万円増の6億7千万円を計上しました。

支出面では、受託研究費で購入した機器備品の設備関係支出への振替や光熱水費の節約などに伴い、教育研究経費支出が予算比8億7千万円減の52億8千万円となりました。施設関係支出では、新豊洲での附属中学高等学校新校舎の建設や建築学部製図室の新築が、他の施設設備改修工事費用のコスト見直し徹底を伴いつつ執行された結果、予算比1億1千万円減の39億5千万円となりました。

以上収支の結果、翌年度繰越支払資金が予算比で12億2千万円の増加となり、将来に向けた一定の備えを確保することができました。

事業活動収支に関しては、教育研究経費の支出が抑えられたことにより、教育活動収支差額が予算比12億3千万円増加の16億1千万円となりました。一方で教育活動外収支差額(受取/支払利息の収支)は、運用利息収入の減少により予算比2千万円減少しました。特別収支については、施設設備関係の現物寄付の増加や、機器備品の除却が抑えられたことにより、1億2千万円の収入超過となりました。以上の結果、基本金組入前当年度収支差額は、予算比13億3千万円増加の17億2千万円(昨年度比9億3千万円減)となりました。

資産・負債に関しては、特定資産(引当資産)や流動資産(現金預金)が前年度末比で減少した一方で、新豊洲での附属中学高等学校新校舎や建築学部製図室の建設等に伴い、建物・構築物などの有形固定資産が前年度末比27億円増の696億円となりました。

負債の部については借入金残高の減少などにより前年度末比4億円減の195億円となっています。純資産については基本金及び翌年度繰越収支差額が合計され、前年度比17億増加し930億円となり、資産総額は前年度末比13億円増の1,125億円となりました。

以上



## 資金収支計算書

当該年度に行なった諸活動に対応する全ての収入と支出の内容、支払資金の収入・支出を明らかにしています。

(単位：百万円)

科目	① 予算	② 決算	③=①-②	前年度決算
学生生徒等納付金収入 ①	14,419	14,415	4	14,412
手数料収入 ①	985	1,066	△ 81	1,014
寄付金収入 ①	331	321	10	316
補助金収入 ①	2,341	2,321	20	2,368
資産売却収入	0	1	△ 1	0
付随事業・収益事業収入 ②	662	720	△ 58	752
受取利息・配当金収入 ②	90	105	△ 15	187
雑収入	453	675	△ 222	542
借入金等収入	0	0	0	1,000
前受金収入	2,793	3,052	△ 259	2,756
その他の収入	4,966	4,889	77	7,282
資金収入調整勘定	△ 2,944	△ 3,157	213	△ 3,054
前年度繰越支払資金	7,038	7,038	0	6,525
<b>収入の部合計</b>	<b>31,133</b>	<b>31,446</b>	<b>△ 312</b>	<b>34,100</b>

科目	① 予算	② 決算	③=①-②	前年度決算
人件費支出	8,306	8,416	△ 110	8,250
教育研究経費支出 ③	6,142	5,277	865	5,443
管理経費支出 ③	1,649	1,586	63	1,540
借入金等利息支出	114	114	0	127
借入金等返済支出	627	627	0	627
施設関係支出 ④	4,054	3,946	108	2,549
設備関係支出 ④	1,319	1,318	1	574
資産運用支出	3,502	3,561	△ 59	7,597
その他の支出	656	620	36	681
資金支出調整勘定	△ 369	△ 373	4	△ 325
翌年度繰越支払資金	5,133	6,354	△ 1,221	7,038
<b>支出の部合計</b>	<b>31,133</b>	<b>31,446</b>	<b>△ 312</b>	<b>34,100</b>

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

### POINT 1

**学生生徒等納付金収入**：授業料、実験実習料などの、いわゆる学費です。学生生徒数約10,760人分。

**手数料収入**：入学検定料や各種証明書手数料等の収入です。大学志願者数の増加を反映し、予算比増加となりました。

**寄付金収入**：内訳①100周年事業：25百万円、②SGU支援：1百万円、③新豊洲開校：30百万円、④教育研究環境整備：25百万円、⑤研究奨励寄付：92百万円、⑥その他使途特定寄付：148百万円。

**補助金収入**：国や地方自治体等から本学が受ける各種補助金です。国庫補助金収入が中心となっています。国庫補助金収入には、教育研究活性化施設整備費24百万円、スーパーグローバル大学創成支援事業82百万円、地(知)の拠点整備事業24百万円等が含まれています。

### POINT 2

**付随事業・収益事業収入**：学生寮や食堂等、教育研究活動に付随する事業や、受託研究事業、本学の公開講座受講料等に関する収入です。このうち受託事業収入は、契約件数の増加により、予算比49百万円の増加となっています。

**受取利息・配当金収入**：奨学金等の引当特定資産に係る運用果実です。

### POINT 3

**教育研究経費支出・管理経費支出**：教育研究経費には、学科等に直接配分される教育研究経費だけでなく、大学事務部門が所管する各種事業経費や、施設設備やIT環境の維持に係る保守清掃費、光熱水費、あるいは修繕工事費などが含まれています。一方、管理経費とは、理事会や間接部門(総務部、財務部など)の業務経費等を指します。消耗品支出などを中心に予算比928百万円の減額決算となりました。

### POINT 4

**施設関係支出**：土地や建物等に関係した支出です。主なものは以下のとおりです。

①附属中高新豊洲・建築工事2,982百万円  
②豊洲・建築学部製図室新築411百万円  
③大宮・グラウンド整備182百万円

**設備関係支出**：什器や機器備品類関係の支出です。主なものは以下のとおりです。

①附属中高新豊洲移転に係る機器備品371百万円  
②教室AV関連システム更新161百万円

## 事業活動収支計算書

当該年度の教育活動収支、教育活動外収支、特別収支に対応する収入及び支出の内容、及び基本金組み入れ後の諸活動に対応する全ての収支の均衡の状態を明らかにしています。

(単位：百万円)

科目		① 予算	② 決算	③=①-②	前年度決算	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	14,419	14,415	4	14,412
		手数料	985	1,066	△ 81	1,014
		寄付金 ⑤	311	277	34	304
		経常費等補助金	2,274	2,283	△ 9	2,285
		付随事業収入	662	720	△ 58	752
		雑収入	453	675	△ 222	542
		教育活動収入計	19,104	19,436	△ 332	19,309
	事業活動支出の部	人件費 ⑥	8,355	8,346	9	8,114
		教育研究経費 ⑥	8,609	7,753	856	7,864
		管理経費 ⑥	1,754	1,692	62	1,658
		徴収不能額等	0	34	△ 34	23
		教育活動支出計	18,718	17,825	893	17,660
	教育活動収支差額		385	1,611	△ 1,226	1,649
	科目		① 予算	② 決算	③=①-②	前年度決算
教育活動外収支	収入の活動	受取利息・配当金	90	105	△ 15	187
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0
		教育活動外収入計	90	105	△ 15	187
	支出の活動	借入金等利息	114	114	0	127
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	114	114	0	127
	教育活動外収支差額		△ 24	△ 9	△ 15	60
経常収支差額		361	1,602	△ 1,241	1,709	
科目		① 予算	② 決算	③=①-②	前年度決算	
特別収支	収入の活動	資産売却差額	0	0	0	910
		その他の特別収入	172	206	△ 34	184
		特別収入計	172	206	△ 34	1,093
	支出の活動	資産処分差額 ⑥	144	90	54	156
		その他の特別支出	0	0	0	0
		特別支出計	144	90	54	156
	特別収支差額		27	116	△ 89	938
基本金組入前当年度収支差額		388	1,718	△ 1,330	2,646	
基本金組入額合計 ⑤		△ 4,212	△ 4,490	278	△ 3,392	
当年度収支差額 ⑦		△ 3,823	△ 2,772	△ 1,051	△ 746	
前年度繰越収支差額		△ 2,224	△ 2,224	0	△ 1,543	
基本金取崩額 ⑦		5	6	△ 1	65	
翌年度繰越収支差額 ⑦		△ 6,042	△ 4,990	△ 1,052	△ 2,224	
(参考)						
事業活動収入計		19,365	19,746	△ 381	20,589	
事業活動支出計		18,977	18,029	948	17,943	

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

## POINT ⑤

**寄付金**：特別寄付金に加え、現物寄付11百万円を計上しています。内容は主に科学研究費補助金で取得した用品などです。

**基本金組入額**：内訳は以下のとおりです。

- ①第1号基本金組入額：△3,689百万円  
施設設備取得に係る組入額4,959百万円、過年度取得資産に係る借入返済に伴う組入額626百万円、ファイナンス・リースの当年度支払額3百万円を組入れました。第2号基本金からの振替分1,900百万円が差し引かれています。
- ②第2号基本金組入額：△800百万円  
先行組入れとして、①中学高等学校校舎等整備資金(8年計画の8年目)300百万円、②100周年記念事業資金(16年計画の6年目)500百万円を組入れました。
- ③第3号基本金組入額：△1百万円  
各種奨学事業経費、顕彰事業経費の残額、及び同事業への寄付金を組入れています。

## POINT ⑥

**人件費**：退職給与引当金の繰入不足額なども計上されています。

**教育研究経費、管理経費**：資金収支計算書の教育研究経費支出、管理経費支出に、減価償却額(各2,465百万円、106百万円)等が計上されています。

**その他の支出(資産処分差額)**：既存の建物・構築物、機器等の資産除却処理に伴い以下のとおり発生しました。

- ①建物構築物廃棄差額 1百万円  
②機器備品廃棄差額 45百万円  
③図書廃棄差額 43百万円  
等を計上

## POINT ⑦

**当年度収支差額**：教育活動支出が予算比計約9億円の圧縮となったことにより、予算比1.051百万円の改善となりました。

**基本金取崩額**：内訳は以下のとおりです。

- ①建物関係に係る取崩：1百万円、②構築物に係る取崩：4百万円、車両に関する取崩：1百万円

**翌年度繰越収支差額**：＝当年度収支差額＋前年度繰越収支差額＋基本金取崩額

## 貸借対照表

当該年度(2016(平成28)年度)末時点の資産・負債・正味財産を把握し、財政状態を表しています。

### 資産の部

(単位：百万円)

科目	本年度末	前年度末	増減
<b>固定資産</b>	<b>105,742</b>	<b>103,689</b>	<b>2,053</b>
有形固定資産 ①	69,623	66,907	2,716
土地	20,288	20,288	0
建物	40,879	35,558	5,321
構築物	1,893	1,118	775
教育研究用機器備品	4,950	4,358	592
管理用機器備品	122	112	10
図書	1,304	1,307	△ 3
車両	5	4	1
建設仮勘定 ①	182	4,162	△ 3,980
特定資産 ②	33,425	33,818	△ 393
第2号基本金引当特定資産	2,550	3,650	△ 1,100
第3号基本金引当特定資産	4,437	4,436	1
施設設備引当特定資産	2,581	2,950	△ 369
退職給与引当特定資産	2,298	2,298	0
減価償却引当特定資産	15,348	14,848	500
借入金返済引当特定資産	740	832	△ 92
教育研究環境整備引当特定資産	151	132	19
研究助成引当特定資産	2,379	2,274	105
大学院建設系社会人学生 特別給付奨学金引当特定資産	55	55	0
創立80周年記念事業引当特定資産	279	279	0
将来計画資金引当特定資産	2,606	2,063	543
三浦賞基金引当特定資産	1	2	△ 1
その他の固定資産	2,694	2,963	△ 269
電話加入権	8	8	0
施設利用権	19	20	△ 1
有価証券	6	6	0
敷金及び保証金	28	27	1
長期貸付金	2,581	2,845	△ 264
長期前払金	53	56	△ 3
<b>流動資産</b>	<b>6,811</b>	<b>7,530</b>	<b>△ 719</b>
現金預金	6,354	7,038	△ 684
未収入金	365	415	△ 50
立替金	2	1	1
前払金	90	75	15
<b>資産の部合計</b>	<b>112,554</b>	<b>111,219</b>	<b>1,335</b>

#### POINT ①

**有形固定資産**：当年度の増減要因は下記のとおりです。

①増加要因：①附属中高新豊洲校舎建設工事(2,982百万円)、建築学部製図室新築(411百万円)、豊洲・芝浦キャンパス機能変更(93百万円)、大宮キャンパス正門設置(63百万円)、豊洲ラーニングcommons設置(39百万円)、各キャンパス防犯対策強化工事(34百万円)他となっています。

②減少要因：減価償却(2,571百万円)のほか、各キャンパス整備に伴う除却、機器備品の廃棄などとなっています。

**建設仮勘定**：当年度の状況は次のとおりです。

大宮総合グラウンド関連整備工事(計182百万円)

#### POINT ②

**特定資産**：第2号基本金引当特定資産から、附属中高新豊洲校舎等整備資金1,900百万円を取崩したほか、減価償却引当特定資産からも、大宮キャンパス正門設置工事などの費用を取崩しました。一方、積立に関しては、第2号基本金引当特定資産へ800百万円、減価償却引当特定資産に1,506百万円、将来計画資金引当特定資産に549百万円など、ほぼ予算通りの繰入支出を計上しました。この結果、H28年度末現在の引当特定資産保有高は前年度末比393百万円の減少となりました。

## 貸借対照表

## 負債の部

(単位：百万円)

科目	本年度末	前年度末	増減
<b>固定負債</b>	<b>11,990</b>	<b>15,190</b>	<b>△ 3,200</b>
長期借入金 ③	8,682	11,809	△ 3,127
退職給与引当金	3,306	3,377	△ 71
長期未払金 ③	2	5	△ 3
<b>流動負債</b>	<b>7,518</b>	<b>4,701</b>	<b>2,817</b>
短期借入金 ③	3,127	627	2,500
未払金	303	297	6
前受金	3,663	3,368	295
預り金	425	410	15
<b>負債の部合計</b>	<b>19,508</b>	<b>19,891</b>	<b>△ 383</b>

## 純資産の部

科目	本年度末	前年度末	増減
<b>基本金 ④</b>	<b>98,036</b>	<b>93,552</b>	<b>4,484</b>
第1号基本金 ④	89,879	84,295	5,583
第2号基本金 ④	2,550	3,650	△ 1,100
第3号基本金 ④	4,437	4,436	1
第4号基本金 ④	1,170	1,170	0
<b>繰越収支差額</b>	<b>△ 4,990</b>	<b>△ 2,224</b>	<b>△ 2,766</b>
翌年度繰越収支差額	△ 4,990	△ 2,224	△ 2,766
<b>純資産の部合計</b>	<b>93,046</b>	<b>91,328</b>	<b>1,718</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>112,554</b>	<b>111,219</b>	<b>1,335</b>

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

## POINT ③

**長期借入金、短期借入金**：当年度末の長期・短期借入金残高合計は11,809百万円となっており、前年度比627百万円の減少となりました。

**長期未払金**：リース資産に係るH28年度以降の支払予定額2百万円を計上しています。

## POINT ④

## 基本金

基本金は企業会計にはない、学校会計独自の会計処理です。学校運営に必要な資産のうち、継続的に維持していくべき資産(校地・校舎・機器備品・図書・現金・預金)の額を表したものを「基本金」といい、毎年一定額を組み入れます。また学校法人会計基準第30条第一項において基本金は4つに分類されています。

基本金の種類	目的
第1号基本金	自己資金で取得した校地・校舎、機器備品などの取得額
第2号基本金	固定資産を取得するために積み立てた預金などの資産の額
第3号基本金	奨学基金、研究基金などの資産の額
第4号基本金	学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額

**第1号基本金**：当期自己資金による固定資産取得高(当年度借入金返済高、建設仮勘定からの振替、及び過年度未払金の支払額を含む)から、基本金取崩額を差引いた結果、前年度末比5,583百万円の増加となりました。

**第2号基本金**：中高校舎等整備資金300百万円ならびに100周年記念事業資金500百万円を組入れました。一方で中高校舎等整備資金1,900百万円の取崩し(第1号基本金への振替)を行いました。

**第3号基本金**：各種奨学事業経費、顕彰事業経費の残額、及び同事業への寄付金を組入れた結果、前年度末比1百万円の増加となっています。

**第4号基本金**：基準に基づき組入れられたは取崩し額が算出されており、今年度については増減はありませんでした。

学校・学部別 事業活動収支内訳表

(単位：百万円)

科目		学校・学部											
		法人	工学部	システム理工学部	デザイン工学部	専門職大学院	大学合計	柏高校	附属高等学校	柏中学	附属中学校	総計	
教育活動収支	事業収入の部	学生生徒等納付金	0	8,206	3,329	1,057	46	12,638	594	398	405	380	14,415
		手数料	10	659	211	110	1	980	18	4	31	24	1,066
		寄付金	0	149	43	12	6	211	18	18	14	16	277
		経常費等補助金	0	915	361	121	39	1,436	300	225	170	153	2,283
		付随事業収入	0	509	99	48	0	656	30	1	32	1	720
		雑収入	154	252	97	56	3	408	40	54	4	14	675
		教育活動収入計	164	10,691	4,140	1,403	94	16,328	1,000	700	657	588	19,436
	事業支出の部	人件費	353	3,950	1,685	496	122	6,253	560	448	389	343	8,346
		教育研究経費	32	4,650	1,504	638	53	6,846	238	209	187	241	7,753
		管理経費	332	698	276	108	11	1,092	86	59	60	63	1,692
徴収不能額等		0	22	10	1	0	34	0	0	0	0	34	
教育活動支出計	717	9,321	3,475	1,243	186	14,224	884	716	636	647	17,825		
教育活動収支差額		△ 553	1,370	665	160	△ 91	2,104	115	△ 16	20	△ 60	1,611	
科目		法人	工学部	システム理工学部	デザイン工学部	専門職大学院	大学合計	柏高校	附属高等学校	柏中学	附属中学校	総計	
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	16	64	8	3	0	76	5	4	2	2	105
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	16	64	8	3	0	76	5	4	2	2	105
	事業支出の部	借入金等利息	0	76	0	0	0	76	0	19	1	18	114
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	76	0	0	0	76	0	19	1	18	114
教育活動外収支差額		16	△ 12	8	3	0	0	5	△ 16	1	△ 16	△ 9	
経常収支差額		△ 536	1,358	674	163	△ 91	2,103	120	△ 32	22	△ 75	1,602	
科目		法人	工学部	システム理工学部	デザイン工学部	専門職大学院	大学合計	柏高校	附属高等学校	柏中学	附属中学校	総計	
特別収支	事業収入の部	その他の特別収入	25	85	43	4	0	133	19	14	2	13	206
		特別収入計	25	85	43	4	0	133	19	14	2	13	206
	事業支出の部	資産処分差額	0	64	10	1	0	75	6	4	1	4	90
		その他の特別支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		特別支出計	0	64	10	1	0	75	6	4	1	4	90
特別収支差額		24	21	34	3	0	58	13	10	2	9	116	
基本金組入前当年度収支差額		△ 512	△ 1,379	707	166	△ 91	2,161	133	△ 22	23	△ 66	1,718	
基本金組入額合計		△ 1,058	△ 1,192	△ 257	△ 83	△ 3	△ 1,534	△ 19	△ 979	△ 29	△ 871	△ 4,490	
当年度収支差額		△ 1,570	187	451	83	△ 94	627	114	△ 1,001	△ 5	△ 937	△ 2,772	
(参考)													
事業活動収入計		205	10,840	4,192	1,410	95	16,537	1,024	717	661	603	19,746	
事業活動支出計		717	9,461	3,485	1,244	186	14,376	891	739	637	669	18,029	

(注) 表中の数字が四捨五入されているため、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

## 経年比較 資金収支計算書

(単位：百万円)

区 分		2012年 (平成24年度)	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)
収 入 の 部	学生生徒等納付金収入	14,516	14,291	14,485	14,412	14,415
	手数料収入	1,044	1,067	1,096	1,014	1,066
	寄付金収入	585	306	367	316	321
	補助金収入	2,340	2,469	2,464	2,368	2,321
	資産売却収入	220	0	0	0	1
	付随事業・収益事業収入	568	579	599	752	720
	受取利息・配当金収入	384	512	411	187	105
	雑収入	705	562	596	542	675
	借入金等収入	6,000	0	1,000	1,000	0
	前受金収入	2,538	2,648	3,226	2,756	3,052
	その他の収入	3,086	3,157	6,471	7,282	4,889
	資金収入調整勘定	△ 3,398	△ 3,086	△ 3,126	△ 3,054	△ 3,157
	前年度繰越支払資金	5,203	4,539	4,970	6,525	7,038
<b>収入の部合計</b>	<b>33,791</b>	<b>27,044</b>	<b>32,559</b>	<b>34,100</b>	<b>31,446</b>	
支 出 の 部	人件費支出	8,399	8,028	8,201	8,250	8,416
	教育研究経費支出	5,441	5,307	5,414	5,443	5,277
	管理経費支出	1,464	1,374	1,390	1,540	1,586
	借入金等利息支出	115	145	135	127	114
	借入金等返済支出	606	516	516	627	627
	施設関係支出	7,993	1,192	2,595	2,549	3,946
	設備関係支出	601	601	557	574	1,318
	資産運用支出	4,332	4,391	6,904	7,596	3,561
	その他の支出	724	828	663	681	620
	資金支出調整勘定	△ 423	△ 308	△ 341	△ 325	△ 373
翌年度繰越支払資金	4,539	4,970	6,525	7,038	6,354	
<b>支出の部合計</b>	<b>33,791</b>	<b>27,044</b>	<b>32,559</b>	<b>34,100</b>	<b>31,446</b>	

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

## 経年比較 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

科 目		2012年 (平成24年度)	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	
教育活動収支	事業収入の部	学生生徒等納付金	14,516	14,291	14,485	14,412	14,415
		手数料	1,044	1,067	1,096	1,014	1,066
		寄付金	673	294	366	304	277
		経常費等補助金	2,181	2,433	2,319	2,285	2,283
		付随事業収入	567	579	599	752	720
		雑収入	705	562	596	542	675
		<b>教育活動収入計</b>	<b>19,686</b>	<b>19,226</b>	<b>19,461</b>	<b>19,309</b>	<b>19,436</b>
	事業支出の部	人件費	8,040	7,951	8,250	8,114	8,346
		教育研究経費	7,947	7,805	7,885	7,864	7,753
		管理経費	1,583	1,497	1,495	1,658	1,692
		徴収不能額等	47	23	50	23	34
<b>教育活動支出計</b>		<b>17,617</b>	<b>17,276</b>	<b>17,680</b>	<b>17,660</b>	<b>17,825</b>	
<b>教育活動収支差額</b>		<b>2,069</b>	<b>1,950</b>	<b>1,781</b>	<b>1,649</b>	<b>1,611</b>	
科 目		2012年 (平成24年度)	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	385	512	411	187	105
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		<b>教育活動外収入計</b>	<b>385</b>	<b>512</b>	<b>411</b>	<b>187</b>	<b>105</b>
	事業支出の部	借入金等利息	115	145	135	127	114
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		<b>教育活動外支出計</b>	<b>115</b>	<b>145</b>	<b>135</b>	<b>127</b>	<b>114</b>
<b>教育活動外収支差額</b>		<b>270</b>	<b>367</b>	<b>276</b>	<b>60</b>	<b>△ 9</b>	
<b>経常収支差額</b>		<b>2,339</b>	<b>2,317</b>	<b>2,057</b>	<b>1,709</b>	<b>1,602</b>	
科 目		2012年 (平成24年度)	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)	
特別収支	事業収入の部	資産売却差額	20	21	1,041	910	0
		その他の特別収入	177	181	234	184	206
		<b>特別収入計</b>	<b>197</b>	<b>202</b>	<b>1,275</b>	<b>1,093</b>	<b>206</b>
	事業支出の部	資産処分差額	633	95	135	156	90
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		<b>特別支出計</b>	<b>633</b>	<b>95</b>	<b>135</b>	<b>156</b>	<b>90</b>
<b>特別収支差額</b>		<b>△ 436</b>	<b>107</b>	<b>1,140</b>	<b>938</b>	<b>116</b>	
基本金組入前当年度収支差額		1,903	2,424	3,197	2,646	1,718	
基本金組入額合計		△ 3,223	△ 3,141	△ 3,066	△ 3,392	△ 4,490	
当年度収支差額		△ 1,320	△ 717	131	△ 746	△ 2,772	
前年度繰越収支差額		△ 629	△ 1,070	△ 1,684	△ 1,543	△ 2,224	
基本金取崩額		879	103	10	65	6	
翌年度繰越収支差額		△ 1,070	△ 1,684	△ 1,543	△ 2,224	△ 4,990	
(参考)							
<b>事業活動収入計</b>		<b>20,267</b>	<b>19,940</b>	<b>21,147</b>	<b>20,589</b>	<b>19,746</b>	
<b>事業活動支出計</b>		<b>18,365</b>	<b>14,517</b>	<b>17,950</b>	<b>17,943</b>	<b>18,029</b>	

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

## 経年比較 貸借対照表

(単位：百万円)

区 分	2012年 (平成24年度)	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)
固定資産	96,796	98,288	101,125	103,689	105,742
流動資産	5,229	5,552	7,031	7,530	6,811
<b>資産の部合計</b>	<b>102,026</b>	<b>103,840</b>	<b>108,156</b>	<b>111,219</b>	<b>112,554</b>
固定負債	15,142	14,537	14,955	15,190	11,990
流動負債	3,823	3,819	4,519	4,701	7,518
<b>負債の部合計</b>	<b>18,965</b>	<b>18,356</b>	<b>19,474</b>	<b>19,891</b>	<b>19,508</b>
基本金	84,130	87,168	90,224	93,552	98,036
繰越収支差額	△ 1,070	△ 1,684	△ 1,543	△ 2,224	△ 4,990
<b>純資産の部合計</b>	<b>83,061</b>	<b>85,484</b>	<b>88,681</b>	<b>91,328</b>	<b>93,046</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>102,026</b>	<b>103,840</b>	<b>108,156</b>	<b>111,219</b>	<b>112,554</b>

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

## 経年比較 主な財務比率

(単位：%)

比率名		2012年 (平成24年度)	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額/ 事業活動収入	9.4	12.2	15.1	12.9	8.7
基本金組入後収支比率	事業活動支出/ (事業活動収入－基本金組入額)	107.7	104.3	99.3	104.3	118.2
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/ (教育活動収入計＋教育活動外収入計)	72.3	72.4	72.9	73.9	73.8
人件費比率	人件費/ (教育活動収入計＋教育活動外収入計)	40.1	40.3	41.5	41.6	42.7
教育研究経費比率	教育研究経費/ (教育活動収入計＋教育活動外収入計)	39.6	39.5	39.7	40.3	39.7
管理経費比率	管理経費/ (教育活動収入計＋教育活動外収入計)	7.9	7.6	7.5	8.5	8.7
流動比率	流動資産/流動負債	136.8	145.4	155.6	160.2	90.6
負債比率	総負債/純資産	22.8	21.5	22.0	21.8	21.0
純資産構成比率	純資産/(負債＋純資産)	81.4	82.3	82.0	82.1	82.7
基本金比率	基本金/基本金要組入額	87.0	88.0	88.0	88.0	89.0



# その他

## 有価証券の状況 (2017(平成29)年3月31日現在)

(単位：百万円)

区分	帳簿価格	時価	表示科目
株式((株)エスアイテック)*	6	6	第3号基本金、施設設備、減価償却、 研究助成、創立80周年記念事業、 将来計画資金の各引当特定資産
種類株式	180	182	
国債	1,411	1,650	
地方債	400	416	
事業債	500	519	
サムライ債・ユーロ円債	550	558	
外債	1,123	1,202	
MTN(仕組債)	100	102	
投資信託	959	703	
SMA	489	520	
計	5,718	5,858	

※「株式」は、本学出資会社株エスアイテックに係るものであり、資金運用を目的に保有するものではありません。

## 借入金の状況 (2017(平成29)年3月31日現在)

(単位：百万円)

借入先	借入残高	利率	返済期限	用途等
日本私立学校振興・共済事業団	4,031	1.70～2.20%	2025(平成37)年3月	校舎取得、整備資金
みずほ銀行	3,589	0.18～1.42%	2033(平成45)年3月	土地取得、校舎取得整備
三井住友銀行	3,589	0.15～1.42%	2033(平成45)年3月	土地取得、校舎取得整備
三菱東京UFJ銀行	600	0.08%	2019(平成31)年4月	校舎取得整備
計	11,809			

## 寄付金の状況

(単位：百万円)

区分	2012年 (平成24年度)	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)
特別寄付金	586	307	367	316	321
周年記念事業寄付*	22	1	0	0	25
研究奨励寄付	95	57	78	81	92
上記以外の用途特定寄付	469	249	289	235	204
現物寄付	105	134	87	88	123
計	691	441	454	404	444

※2012年度は創立30・60・90周年(板橋)、創立50周年(大宮)の合計となっています。

## 大学教育改革支援経費等の受入状況

(単位：百万円)

区分		取組名称	2012年 (平成24年度)	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)
大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能支援)	件数	特色ある優れた産学官連携活動	1 <sup>※1</sup>				
	金額		19				
地域イノベーション戦略支援プログラム(研究機能・産業集積高度化地域)	件数	首都圏スマートQOL(Quality of Life)技術開発地域	1 <sup>※2</sup>				
	金額		13	13	12	12	
国際化拠点整備事業費補助金(グローバル人材育成推進事業)	件数	グローバル人材育成推進事業(タイプB特色型)	1 <sup>※3</sup>				
	金額		43	87	89		
国際化拠点整備事業費補助金(スーパーグローバル大学創成支援)	件数	スーパーグローバル大学創成支援(タイプBグローバル牽引型)			1 <sup>※4</sup>		
	金額				30	90	82
大学改革推進(産業界のニーズに対応した教育改善)	件数	首都圏に立地する大学における産業界のニーズに対応した教育改善	1 <sup>※5</sup>				
	金額		4	10	10		
地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)	件数	「まちづくり」「ものづくり」を通じた人材育成推進事業		1 <sup>※6</sup>			
	金額			37	53	37	24
科学技術人材育成	件数	女性研究者研究活動支援事業		1 <sup>※7</sup>			
	金額			19	30	30	2
大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業	件数	イノベーション対話促進プログラム		1			
	金額			12			
大学改革推進等補助金	件数	大学教育再生加速プログラム			1 <sup>※8</sup>		
	金額				15	26	20
産学連携サービス経営人材育成事業	件数	中小企業ものづくりサービス化のリーダーを育成する循環型教育				1	1 <sup>※9</sup>
	金額					10	8
合計			79	178	239	205	136

※1 「特色ある優れた産学官連携活動」は、2008(平成20)年度から5ヵ年度に及ぶ採択です。

※2 「首都圏スマートQOL(Quality of Life)技術開発地域」は、2011(平成23)年度から5ヵ年度に及ぶ採択です。

※3 「グローバル人材育成推進事業」は、2012(平成24)年度から5ヵ年度に及ぶ採択でしたが、スーパーグローバル大学創成支援に統合されました。

※4 「スーパーグローバル大学創成支援」は、2014(平成26)年度から10ヵ年度に及ぶ採択です。

※5 「首都圏に立地する大学における産業界のニーズに対応した教育改善」は、2012(平成24)年度から3ヵ年度に及ぶ採択です。

※6 「「まちづくり」「ものづくり」を通じた人材育成推進事業」は、2013(平成25)年度から5ヵ年度に及ぶ採択です。

※7 「女性研究者研究活動支援事業」は、2013(平成25)年度から3ヵ年度に及ぶ採択です。2016(平成28年度)は、連携型採択です。

※8 「大学教育再生加速プログラム」は、2014(平成26)年度から5ヵ年度に及ぶ採択です。

※9 「産学連携サービス経営人材育成事業」は、単年度毎の採択です。

## 研究費等外部資金獲得状況

## &lt;科学研究費&gt;

(単位：百万円)

区分	2012年 (平成24年度)	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)
科学研究費(件数)	98	94	100	101	112
金額(計)	128	155	163	135	178

(注) 科学研究費は研究者等に直接交付される補助金であり、学校会計の収入には含まれず、またここから支出される経費も学校会計の諸支出には含まれません。  
上記は、本学教員が研究代表者となっている件数と金額(直接経費)です。

## &lt;競争的資金(国プロ)&gt;

(単位：百万円)

区分	2012年 (平成24年度)	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)
競争的資金(件数)	47	58	47	58	52
契約額(計)	303	320	327	494	470

(注) 複数年にまたがる契約は年度毎に1件として集計しています。

## &lt;受託・共同研究&gt;

(単位：百万円)

区分	2012年 (平成24年度)	2013年 (平成25年度)	2014年 (平成26年度)	2015年 (平成27年度)	2016年 (平成28年度)
受託・共同研究(件数)	167	184	195	239	228
契約額(計)	203	176	160	219	219

(注) 複数年にまたがる契約は初年度に1件として集計しています。

## 関連当事者等との取引の状況

会社等の名称	資本金等	出資割合	取引の内容	摘要
(株)エスアイテック	20百万円	49.50%	(支出) (注1) 物品購入、施設管理・清掃・人材派遣等業務委託、機器他リース料支払、印刷製本委託、保険料支払 (収入) 施設設備利用料他の受入	理事・職員計2人が取締役役に就任している。 2016(平成28)年度取引高の合計は約2,256百万円です。

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 機器備品等物品購入及びその他の取引について、本学経理規程に基づいて業者の選定及び価格を決定している。

## 関連する法人の概要 2017(平成29)年3月31日現在

会社名	株式会社エスアイテック		所在地	東京都江東区豊洲3-7-5 芝浦工業大学内	
代表者名	代表取締役 鈴見 健夫		設立年月日	1998(平成10)年6月30日	
従業員数	28人	役員数	5人(うち2人は学校法人の役員(理事)及び職員が兼務)		
定款上の目的	芝浦工業大学の教育と研究を支え発展させるため、活発に事業を行い、その利潤を学校法人芝浦工業大学に還元することを目的とする。				
事業内容	出版・翻訳・印刷業、建設業、警備・清掃・保守管理業、人材派遣業、損害保険・生命保険代理店業、リース事業、特別販売事業、イベント企画事業、その他				
学校の行う教育研究活動との関連	1) 学校法人への寄付(これまでに約8億1千9百万円の寄付を行う) 2) 学生総合保険、キャンパスライフ総合保険代理店窓口としてのサービス 3) 研究室機器、備品、事務用機器等の販売 4) 事務職員等の人材派遣				
資本金額	20百万円(202株)				
出資割合	学校法人の持株数	100株	その他の出資者の持株数 (大学後援会・校友会・持株会)	102株	
事業の概要 2016年6月期	売上高	当期損益 (法人税等控除後)	出資元学校法人への		
	1,848百万円	4百万円	寄付金額	家賃・地代等	配当金
			50百万円	3百万円	0円

**参考 財産目録の概要** (2017(平成29)年3月31日現在)

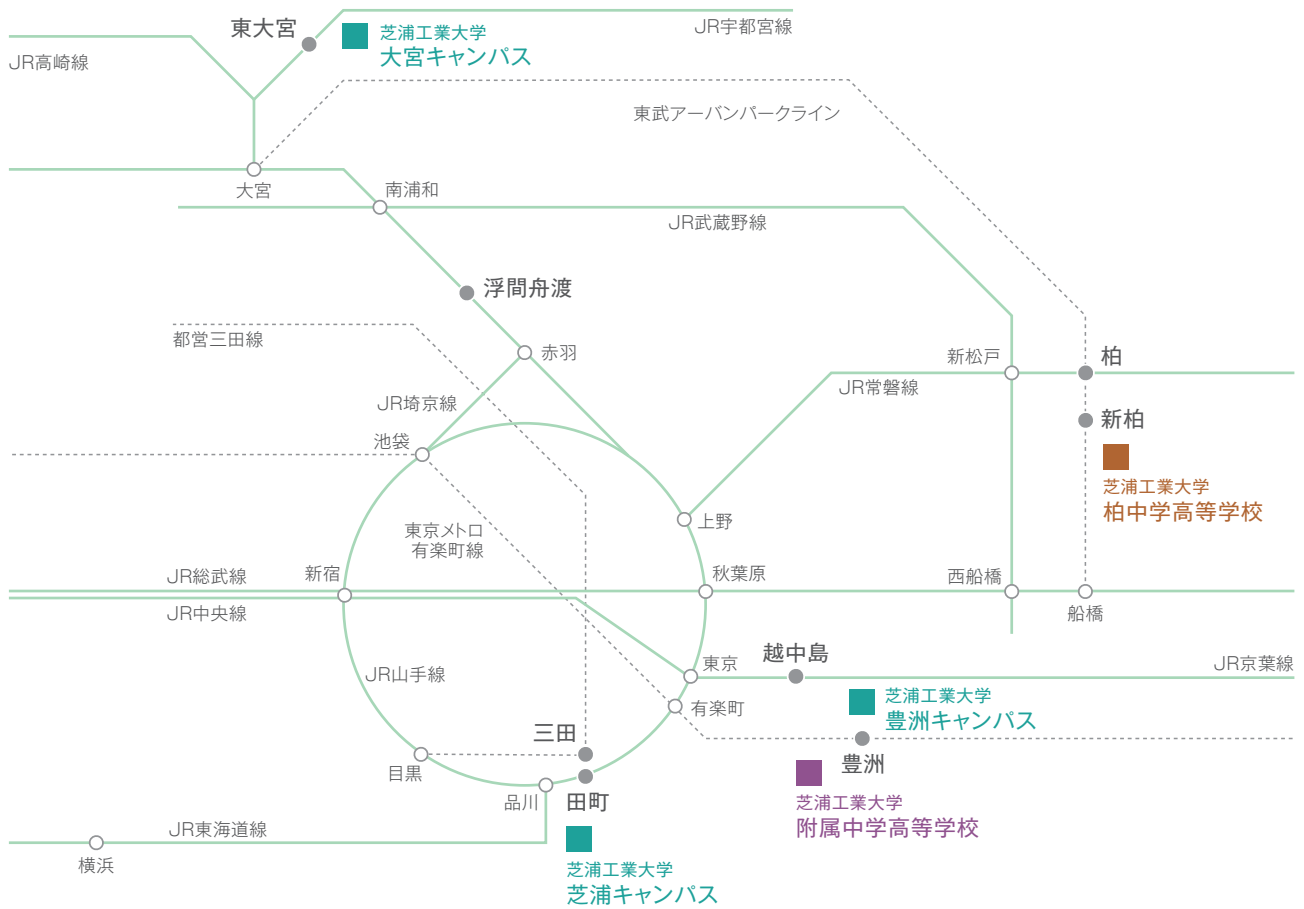
1. 財産目録(総括)					
資産総額	112,554百万円	内	基本財産	69,678百万円	
			運用財産	42,876百万円	
負債総額	19,508百万円				
正味財産	93,046円				
2. 資産				112,554百万円	
① 基本財産				69,678百万円	
1) 土地	地区	所在地	面積(百㎡)	価額(百万円)	
	豊洲地区	東京都江東区豊洲3丁目7番5号	300	8,821	
	大宮地区	埼玉県さいたま市見沼区大字深作307番他	1,702	1,825	
	芝浦地区	東京都港区芝浦3丁目9番14号	26	395	
	板橋地区	東京都板橋区坂下2丁目2番1号	100	1,613	
	新豊洲地区	東京都江東区豊洲6丁目2番7号	170	6,228	
	柏地区	千葉県柏市増尾700番他	448	1,228	
	会津高原地区	福島県南会津郡南会津町高杖原740番	74	74	
	その他	埼玉県さいたま市西区大字二ツ宮113番1号他	6	104	
		計		2,826	20,288
2) 建物	地区	面積(百㎡)	価額(百万円)		
	豊洲地区	619	16,142		
	大宮地区	642	11,318		
	芝浦地区	125	3,716		
	板橋地区	108	969		
	新豊洲地区	180	6,270		
	柏地区	157	1,788		
	会津高原地区	40	579		
その他	7	97			
	計	1,878	40,879		
3) 図書	種別	冊数(千冊)			価額(百万円)
		内国書	外国書	計	
	図書	273	31	304	1,200
	学術雑誌	19	18	37	104
	計	292	49	341	1,304
4) 教具・校具 及び備品	名称又は種類		数量(千点)	価額(百万円)	
	教具・校具		88	4,615	
	備品		7	457	
	計		95	5,072	
5) その他	種類	主な内容	金額(百万円)		
	構築物	各校舎の給排水施設、緑化施設など	1,893		
	車両	小型乗用車、警備用巡回車両など(19台)	5		
	電話加入権	92本	8		
	施設利用権	予備電力供給施設など	19		
	敷金及び保証金	東大宮学生寮敷金など	28		
	建設仮勘定	大宮総合グラウンド整備工事など	182		
	計		2,135		

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

② 運用財産		42,876百万円		
1) 預金	預金種別	価額(百万円)		
	普通預金	6,173		
	振替貯金	178		
	計	6,351		
2) 現金等	種別	金額(百万円)		
	手許現金、郵便切手	3		
	計	3		
3) 積立金	内訳	金額(百万円)	保有形態	
			種別	金額(百万円)
	第3号基本金引当特定資産	4,437	普通預金	4,137
			有価証券	300
	上記以外の特定目的引当特定資産	28,988	普通預金	23,576
		有価証券	5,412	
	計	33,425	33,425	
(注) 各引当資産の運用は、「保有形態」欄記載の金融商品によっています。				
4) 有価証券	内訳	金額(百万円)		
	「(株)エスアイテック」普通株式100株	6		
	計	6		
5) 長期貸付金	内訳	金額(百万円)		
	芝浦工業大学貸与奨学金	2,520		
	芝浦工業大学後援会貸与奨学金	115		
	徴収不能引当金など	△ 54		
	計	2,581		
6) 未収入金	内訳	金額(百万円)		
	学生生徒等納付金、国庫補助金、私学退職金団体交付金他	387		
	徴収不能引当金	△ 22		
	計	365		
7) 前払金	内訳	金額(百万円)		
	長期前払金	53		
	短期前払金	90		
	計	143		
8) 立替金	内訳	金額(百万円)		
	立替金	2		
	計	2		

3. 負債						19,508百万円
① 固定負債						11,990百万円
	種類	金額(百万円)	利率	返済期限	用途等	
1) 長期借入金	日本私立学校振興・共済事業団	3,515	1.70% ~ 2.20%	2025(平成37)年 3月15日	校舎取得、整備資金	
	市中金融機関	5,167	0.08% ~ 1.42%	2033(平成45)年 3月21日	校地・校舎取得、 整備資金	
	計	8,682				
2) 退職給与引当金	内訳					金額(百万円)
	退職給与引当金					3,306
	計					3,306
3) 長期未払金	内訳					金額(百万円)
	長期未払金(構築物リース物件)					2
	計					2
② 流動負債						7,518百万円
	種類	金額(百万円)	利率	用途等		
1) 短期借入金 (長期借入金の内1 年以内の返済分)	日本私立学校振興・ 共済事業団	516	1.70% ~ 2.20%	校舎取得、整備資金		
	市中金融機関	2,611	0.18% ~ 1.42%	校舎取得、整備資金		
	計	3,127				
2) 前受金	内訳					金額(百万円)
	学費前受金					3,037
	学費以外の前受金					626
計					3,663	
3) 未払金	内訳					金額(百万円)
	未払金					303
	計					303
4) 預り金	内訳					金額(百万円)
	教職員関係預り金(源泉税、住民税他)					131
	学生生徒関係預り金(各種代理徴収金他)					218
	その他の預り金					76
計					425	
4. 正味財産						93,046百万円

# ACCESS



(2016年3月31日現在)



芝浦工業大学  
芝浦キャンパス

〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14  
Tel:03-5859-7000(代表)

JR山手線・京浜東北線「田町駅」芝浦口より徒歩3分  
都営地下鉄三田線・浅草線「三田駅」より徒歩5分



芝浦工業大学  
豊洲キャンパス

〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5  
Tel:03-5859-7340(代表)

東京メトロ有楽町線「豊洲駅」1cまたは3番出口より徒歩7分  
JR京葉線「越中島駅」2番出口より徒歩15分



芝浦工業大学  
大宮キャンパス

〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307  
Tel:048-683-2020(代表)

JR宇都宮線(東北本線)「東大宮駅」よりスクールバス  
5分、または徒歩20分



芝浦工業大学  
附属中学高等学校

〒135-8139 東京都江東区豊洲6-2-7  
Tel:03-3520-8501(代表)

東京メトロ有楽町線「豊洲駅」より徒歩7分  
新交通ゆりかもめ「新豊洲駅」より徒歩1分



芝浦工業大学  
柏中学高等学校

〒277-0033 千葉県柏市増尾700  
Tel:04-7174-3100(代表)

東武アーバンパークライン「新柏駅」よりスクールバス  
5分、または徒歩25分  
JR常磐線「柏駅」よりスクールバス・東武バス15分

<http://www.shibaura-it.ac.jp>

芝浦工業大学 検索



学校法人

芝浦工業大學

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

Established 1927